長薬同窓会報

Alumni Association

School of Pharmaceutical Sciences
Nagasaki University

第　63　号(2023年)

目　　次

同窓会長挨拶……山口　正広（昭56）　…… 1

薬学部長挨拶……西田　孝洋　…… 2

令和５年度長薬同窓会定期総会・懇親会…… 3

令和６度長薬同窓会定期総会のご案内…… 3

芳本先生秋の叙勲受章…… 4

長崎大学薬学部の起源について：分析窮理所遺構発掘から記念碑建立までの流れ…… 5

長崎大学ホームカミングデー2023…… 10

支部だより…… 11

関東支部，近畿支部，北九州支部，福岡支部浦陵会，大分支部

熊本支部，長崎県北支部，長崎県県央支部，長崎支部ぐびろ会

クラス会および近況だより…… 19

富安一夫（昭34），伊藤（尾上）充代（昭45），森　賢造（昭47），織田公光（昭48），小林節子（昭49）

梶村　博（昭50），木原哲郎（昭53），高良真也（昭57），原　正朝（昭60），川邉雅則（昭62）

山本　稔（平２），逆瀬川（川留）康代（平５），宮元敬天（平20），林田颯志（平28），

同窓会活動報告…… 29

伊藤　慎（学１），中野朝陽（学１），中村大海（学３），宮元敬天（平20），岸川直哉（平10）

山口正広（昭56），上薗令奈（学５），鳥越彩伽（学５）

研究室だより…… 35

細胞制御学，創薬薬理学，薬化学，薬品製造化学，医薬品合成化学，ゲノム創薬学，天然物化学

機能性分子化学，衛生化学，薬品分析化学，薬物治療学，医薬品情報学，薬剤学，実践薬学

薬用植物学，臨床研究薬学，分子病態化学，薬品構造解析学

庶務報告…… 53

物故者氏名…… 54

寄附のご案内…… 55

学内記事…… 57

長薬同窓会役員名簿…… 59

長薬同窓会支部一覧…… 60

会計報告（令和４年度決算，監査報告，令和５年度予算）…… 61

会費振り込みのお願い…… 63

事務局からのお願い

編集後記

ご　挨　拶

会 長　山口　正広（昭56）

長薬同窓会報（第63号）の発行にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

長薬同窓会会員の皆様におかれましては，益々ご健勝のこととお喜び申し上げますとともに，日頃から本同窓会活動に対しご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

社会経済活動の停滞をもたらした新型コロナウイルス感染症につきましては，2023年５月８日より感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザなどと同じ「５類」に移行し，感染対策は個人や事業者の判断に委ねられることになりました。流行が収まるまでには至っておりませんが，私たちの社会生活も少しずつ落ち着きを取り戻しているところであり，人々の活動も以前の状況に近づいて来ています。

同窓会の事業につきましても，コロナ禍の中において中止しておりました取り組みを少しずつ再開しているところであり，今年度は定期総会を大分支部のお世話により４年ぶりに懇親会も含めて対面で開催することができました。また，支部総会につきましても５支部（長崎支部，熊本支部，長崎県央支部，長崎県北支部，関東支部）において懇親会も含め開催していただいています（執筆時点）。

コロナ禍の中では，クラスター（集団）発生を防止するため，三密を避けることが要請され，人々の交流も制限されてきました。感染症法上の位置づけが変わり行動制限が緩和された今年度，定期総会や支部総会が開催される中，対面での交流や懇親を待ち望んでおられる多くの会員もいらっしゃることを再確認させていただきました。そして，会員同士のつながりや交流の重要さを再認識した次第です。大分で開催された定期総会には，薬学専門部ご卒業の古川淳先生（昭25・大分），岸川良先生（昭25・福岡），西川恭夫先生（昭26・大分）（３名の先輩方はともに90歳代）にもご参加いただき，先輩方から学生時代のお話しもお聴きすることもできました。

同窓会といたしましては，デジタル技術を活用した諸事業にも取り組む一方，会員皆様が直に親睦や交流を深める事業の推進並びにその支援にも引き続き取り組んでまいります。会員の皆様には，クラス会や支部会の開催など会員の皆様が集う場づくりを進めていただきたいと思いますし，是非ご参加をお願いいたします。なお，定期総会の開催状況のほか，今年度の同窓会事業の取り組み状況については，巻末の庶務報告やホームページに掲載しております。

一方，同窓会におきましては，例年行っている事業のほか，来年度は５年ごとに発刊することとしている同窓会名簿の作成を予定しております。同窓会名簿の作成手順としては，会員情報の変更に関する年度初めの郵送による照会事務から始まり，多くのデータの集約や変更事項の反映など，限られた時間の中で事務作業を執り行う必要があります。より効率的な事務作業を進めるため，現在事前にホームページ上で会員情報の変更について受付を始めています。早めの変更情報の提供や迅速なご回答など円滑な事務作業の遂行に会員皆様のご協力をお願いいたします。なお，同窓会名簿は希望される会員（(注) 直近３年間の会費の納入状況による制限あり）の皆様へ配布しており，来年度初めの郵送による変更照会時にご希望についてもお聞きする予定です。

また，昨年度の会報の挨拶でも触れましたが，2025年度は，長崎大学薬学部の源流と言われている分析窮理所（小島養生所･医学所の隣接地に開設された理化学校）が1865年に設置されてから160年目の節目の年に当たり，同窓会では長崎大学薬学部と協力して記念事業を行う予定にしております。記念事業の具体的な内容については，現在検討が進められているところですが，会員の皆様には今後いろいろとご協力をお願いすることになると思います。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。なお，分析窮理所遺構発掘から記念碑建立までの長薬同窓会の対応の流れとその後の動きを川上茂副会長（平７）にまとめていただき，本会報の別ページに掲載しておりますので，ご覧ください。

結びに，会員皆様の今後益々のご多幸とご活躍を祈念しますとともに，同窓会活動に一層のご支援とご協力を賜りますようお願いを申し上げ，ご挨拶とさせていただきます。

古川淳先生を囲んで（定期総会にて）

長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長　西田　孝洋

本年４月より引き続き薬学部長を拝命いたしました。あらためて，御指導，御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

長薬同窓会の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。常日頃より長崎大学薬学部の教育研究に格別のご支援とご高配を賜り誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症が５類感染症に移行し，各種制限も無くなったことから，長崎にも賑わいが戻ってきました。おくんちも４年ぶりに開催され，長崎駅前の再開発や長崎スタジアムシティの工事も急ピッチで進んでおり，長崎は活気に溢れています。

今年はシーボルトが長崎に来日してから200年というメモリアルな年です。長崎大学医学部および医歯薬学総合研究科の主催により，記念シンポジウムが開催され，長崎大学薬学部の源流とされている分析窮理所（1865年設立）にも大きな注目が集まりました。遺構見学などのフィールドワークによる長崎大学薬学部の歴史教育は学長からも高い評価を受けております。2025年には，分析窮理所設立から数えると，長崎大学薬学部は160周年を迎えます。これまでの第五高等中学校医学部薬学科創設を起源とする従来の数え方だと135周年になります。久しぶりに対面で開催されました大分での長薬同窓会懇親会でも発言しましたように，2025年には薬学部創立135（160）周年を迎え，今後の教育研究の向上に寄与できる事業を計画できたらと考えています。引き続き，皆様方の一層のご支援とご協力をお願いする次第です。

学部に関わる行事としまして，今年も長薬同窓会皆様方のご厚意により，９月28日に１年生を対象とした白衣贈呈式を開催させていただきました。長薬特製の白衣を贈呈くださいました長薬同窓会に改めて御礼申し上げます。一方，コロナ禍の影響でオンラインで実施してきた国際交流については，海外短期研修を本年２月より再開し，長薬同窓会の援助の下，アメリカニューメキシコ大学に薬学科学生を２名派遣出来ました，重ねて御礼申し上げます。

ここで，この場をお借りして，人事異動の近況，国家試験の合格状況や就職状況について報告させていただきます。３月に天然物化学分野の田中 隆教授が定年退職されましたが，再雇用という形で引き続き教育研究に協力いただいています。４月には医薬品情報学分野のプロジェクト専任准教授に毛利浩太先生，プロジェクト専任助教として，藁科翔太先生，野村祥子先生，神谷万里子先生が採用されました。

続きまして，第108回の国家試験では，新卒者35名が受験し34名が合格し，合格率は97％と非常に高い値でした。合格率向上に向けて精力的な指導を行っていきますので，ご理解のほどお願いいたします。就職･進学状況については，薬学科の卒業生37名のうち，病院14名，調剤薬局15名，１名が公務員，４名が製薬関連企業に就職し，また１名が大学院に進学しました。一方，薬科学科では卒業生43名中，本学博士前期課程進学が36名，他大学院進学が１名，就職などが６名となっております。博士前期課程修了者35名の進路は，博士後期課程進学者が７名，製薬企業15名，化学等の製造業５名，CROが３名，その他が５名となっています。今後も学生の希望に沿った進路実現に向けて，サポートを一層充実させていきますので，同窓会の皆様には引き続きご支援の程，よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが，長薬同窓会の今後益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念いたします。今年の大分での懇親会では古川先生と久しぶりに会えて非常に嬉しかったです。今後も引き続き，皆様と顔を合わせ，懇親会などが出来ることを切に望んでおります。

令和５年度長薬同窓会定期総会・懇親会

本年度は，令和５年６月17日（土）大分支部 石橋 眞支部長（昭49）のお世話で大分市のレンブラントホテルで開催されました。

総会には37名の会員の皆様にご出席いただき無事に終了いたしました。総会後は，石橋支部長ご挨拶，ご来賓　西田薬学部長よりご祝辞を賜り西川恭夫様（昭26）の御発声で懇親会が始まりました。

４年ぶりの懇親会では皆様楽しくご歓談され，古川　淳先生（昭25）より長薬の歴史をお話いただきました。若松正人様（平１）による巻頭言と校歌斉唱を全員で行い，山瀬敬治様（平19）の一本締めで盛会裏に終わりました。

令和６年度の総会は北九州市での予定です。皆様の御参加お待ちしております。

会長挨拶

北九州支部長挨拶

大分支部長挨拶

薬学部長祝辞

乾杯音頭

お話

懇親会

懇親会

一本締め

令和６年度長薬同窓会定期総会のご案内

日時　2024年６月１日（土）16時30分～総会
18時00分～懇親会
場所　ＪＲ九州ステーションホテル小倉（ＪＲ小倉駅直結）
〒802-0001　北九州市小倉北区浅野1-1-1　　ＴＥＬ.093-541-7111

※新型コロナウイルス感染拡大により開催中止となる場合があります。
５月頃送付予定の定期総会案内でご確認ください。

芳本忠長崎大学名誉教授が
瑞宝中綬章を受章されました

内閣府　受章者名簿

芳本先生門下生　　**伊藤　　潔**（昭59）（摂南大学薬学部教授）

第18代長崎大学薬学部長 芳本忠名誉教授が，令和５年秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。謹んでお喜び申し上げます。

芳本先生は，昭和44年に大阪市立大学大学院を修了後，小野薬品工業株式会社の勤務を経て，昭和48年に長崎大学薬学部講師として赴任されました。その後，助教授，教授へと昇進され，平成９年には薬学部長，平成20年には長崎大学学長補佐を勤められ，平成22年３月に定年退職されました。この間，研究と教育に邁進され，多くの優秀な学生を世に送り出されるとともに，薬学部，さらには長崎大学の発展に大きく貢献されました。長崎大学退職後は，奈良県のご実家に戻られ，摂南大学理工学部（大阪府寝屋川市）の教授として新たな学生の教育に取り組み，退職後の現在は奈良県の法隆寺のそばでブドウ栽培なども手掛けられ，晩夏には大きく実った房を送ってこられるなど，元気に私たち門下生を楽しませながら驚かせていらっしゃいます。

芳本先生の業績，近況については，また改めてお知らせする機会を持てればと存じますが，門下生の一人であり，長崎大学をご退職後に奉職され摂南大学の学長を務められた荻田喜代一氏のお祝い文を掲載させていただきます。

摂南大学　相談役（前学長）・同薬学部特任教授　　**荻田喜代一**（院昭54）

芳本忠先生の瑞宝中綬章の叙勲を弟子の一人として本当にうれしく思っています。私は長崎大学大学院薬学研究科・製造工学教室で鶴教授並びに芳本先生からご指導を受けていました。その後も折に触れご指導をいただき，その後の私の研究者・大学人としての人生の基盤を創らせていただいたと感謝申し上げています。そのご縁もあり，私が勤務している摂南大学の理工学部・生命科学科の開設計画時に，私の思いを汲んでその立ち上げに奔走いただきました。開設時から生命科学科長としてもご尽力されるとともに，研究支援センター長として本学の研究推進に手腕を発揮されました。先生のパワーとお人柄で周囲を巻き込んで摂南大学の発展に大いに貢献いただいたことは感謝の念に堪えません。今回の叙勲を重ねてお祝い申し上げます。

芳本先生門下生　　**椛島　　力**（平４）（長崎国際大学薬学部教授）

長崎大学名誉教授の芳本忠先生が，令和５年秋の叙勲で瑞宝中綬章を受章されました。長崎大学および摂南大学での芳本先生の長年の功績が認められ，栄えある受章をされたこと，教え子の一人として，心からお祝い申し上げます。芳本先生の功績については，おそらく伊藤潔先生が執筆されると思いますので，ここでは私の思い出話を紹介せていただきます。

私は４年生の研究室配属の際，当時，学部内で唯一遺伝子組み換え実験をしていた旧薬品製造工学教室を志望しました。人気のある研究室だったのですが，すったもんだの末，無事に配属され，芳本先生に師事することになりました。後に知ったのですが，この遺伝子組み換え技術を導入するため，芳本先生が自ら九大へ行かれたと言うことで，その先見の明と行動力には脱帽するばかりです。また，研究上必要な物もいち早く取り入れられ，私が研究室に配属されたときには，当時としては珍しいＭａｃが既に研究室にありました（30年以上前の話です）。

話は戻りますが，配属も決まった３年生末の春休みに，当時，助教授の芳本先生から，暇なら研究室で酵素（ピログルタミルペプチダーゼ）遺伝子のスクリーニングを手伝わないかと言われ，特に予定もなかったので１週間ほど同級生と通いました。実験自体は，組み換え大腸菌を１コロニーずつ96穴プレートに植菌し，１晩培養後，活性を測定するというもので，実験って地味だなと思ったことを覚えています。１週間ほどで活性を示す大腸菌が見つかり，実験を指導していただいていた大学院生（当時）の下田泰治さん（平２）が報告したところ，すごく喜ばれ，何がそんなに嬉しいのだろうとポカンとしている私達に「おぬし達には，まだ分からんだろうな」とにこやかに言われたのを鮮明に覚えています。ちなみに，この遺伝子は，下田さんの修士論文，私の卒業論文のテーマとなり，芳本先生が発表された論文は，日本生化学会の第１回ＪＢ論文賞を受賞しました。

その後，当時教授だった故鶴大典先生（長崎大学名誉教授）が定年退官され，芳本先生が教授になられるタイミングで，私は大学院後期課程に進学し，そのまま助手として採用していただき，芳本先生の下で研究のイロハを学ばせていただきました。それ以来，薬学部の教員として研究・教育に携わっていますが，芳本先生の下から薬剤師をはじめ，産官学で活躍されている門下生が多数輩出されたことを考えると，まだまだ努力が足りないなと痛感しています。

昨年５月に，鶴大典先生を偲ぶ会にてお会いした際は，昔と変わらぬご様子に，当時を懐かしく思い出しました。

末筆ではございますが，芳本先生のますますのご健勝とご多幸を心より祈念いたします。

長崎大学薬学部の起源について：
分析窮理所遺構発掘から記念碑建立までの流れ

長薬同窓会副会長・長崎大学薬学部教授　川上　茂（平７）

文久元年（1861）８月，小島郷の丘（現在の西小島）に，日本最初の西洋式近代病院として養生所と医学所が開設された。慶応元年（1865）に養生所と医学所は統合されて精得館と改称，化学教室である分析窮理所も新設された[1, 2]。2025年には分析窮理所が設置された1865年から数えて160周年を迎えることになり，現在，長崎大学薬学部と長薬同窓会は160周年記念事業の準備をすすめている。ここでは，分析窮理所遺構発掘から記念碑建立までの長薬同窓会の対応の流れとその後の動きをまとめる。

2015年（平成27年）10月に旧佐古小学校と旧仁田小学校の統合時における佐古小学校跡地での仁田佐古小学校の建設工事に際し,「小島養生所」と「分析窮理所」の遺構が発掘された[3]。これを契機に医学部相川忠臣名誉教授らによってこれら遺構の歴史的価値の再評価がなされ，その結果を基にして同年10－11月に完全保存に関する署名活動が行われた。遺構建設当時医学部と一体であった薬学部にも協力依頼があり，山中國暉長薬同窓会会長（昭43）（当時）と黒田直敬薬学部長（当時）の指示のもと本部役員のうち薬学部教員が中心となって長崎大学薬学部・長薬同窓会での遺構保存に関する署名活動を行った。長崎新聞の記事によると，保存運動の中で相川名誉教授は，長崎大学医学部・病院関係者や長崎大学薬学部関係者を中心に約１万６千人の署名を集めたとある。署名活動を終えた同年11月に，長崎大学医学部・長崎大学病院と長崎大学薬学部の２者をそれぞれ「小島養生所」と「分析窮理所」遺構の関係者の中心として署名を提出することになり，医学部・病院側より相川名誉教授が，薬学部から黒田薬学部長と山中長薬同窓会長の代理として薬学部川上茂教授・長薬同窓会役員（平７）の２名で長崎市議会を訪問して，長崎市長と長崎市議会に対して遺構の完全保存に関する要望書を提出した。しかし，本要望に対して田上富久長崎市長（当時）は反対，長崎市議会でも否決される結果となった。

しかしその後，医学部と薬学部関係者の署名活動の成果として，遺構の一部保存が実現することになり，コロナ禍の最中となる2021年（令和３年）３月に遺構の整備が完了した。遺構整備の際，長崎大学薬学部および長薬同窓会は，長崎大学医学部・長崎医学同窓会，長崎大学病院，長崎市の関係者と議論し，分析窮理所の歴史的価値や位置づけを再確認した上で，長崎大学薬学部の起源であると結論づけられた。またその際，長崎大学医学部・長崎医学同窓会，長崎大学病院，長崎市の関係者と相談し，尾野村治薬学部長（当時）と山口正広長薬同窓会長（昭56）との協議のもと，分析窮理所建設から155周年（第五高等中学校医学部薬学科創設から130周年）を記念した薬学部と長薬同窓会の合同事業として「分析窮理所　長崎大学薬学部源流　発祥の地」と表記した記念碑の建立を行った（写真１）。

写真１　分析窮理所跡地に建立した記念碑（2021年３月）

2021年３月頃はコロナ禍ということで記念碑の建立のみが実現した状態であったが，コロナ禍の収束が見え始めた2022年（令和４年）６月23日に仁田佐古小学校において，分析窮理所遺構移設完了の記念イベントが開催され，西田孝洋薬学部長の指示のもと旧佐古小学校の卒業生である川上教授・長薬同窓会副会長が「薬学における分析窮理所の歴史的な意義や長崎大学薬学部に至る歴史に関する講義」を仁田

佐古小学校生徒や丸山町郷土歴史家山口広助氏らの地域住民に対して行い（写真２），また一緒に薬草を花壇に植樹するなど，長崎新聞，西日本新聞，長崎経済新聞，長崎大学広報にも取り上げられ長崎市民にも広く周知された。

これまで長崎大学薬学部では，第五高等中学校医学部に薬学部が創設されて医学部と明確に区別された1890年を発端としてきた。しかし，これは「学科」設置単位の話での区分であり，江戸時代から明治時代初期頃は医学と薬学が分かれ始めた時期であるため，学問的な分岐点が起源とも考えられる。長い歴史を持つ全国の薬学部の発端をみると，有機化学が急速に発展してきた時期であるため，創薬や医薬品の品質評価に必要となる「化学」や「物理」に特化した教育や研究が行われたことをもって起源としている大学も多い。例えば，金沢大学薬学部は“加賀藩卯辰山養生所に製薬所と薬圃が付設され,「舎密局」が置かれた”ことを起源としている[4]。「舎密」とはオランダ語で化学をセーミということから化学のことを指す。一方長崎では，1865（慶応元）年に化学教室である分析究理所も新設された[1, 2]。当時の言葉で,「分析」は化学,「窮理」は物理を指す。1866年５月に着任された[1]オランダ人理化学者クーンラート・ハラタマ博士（写真３）が当時の西洋と同等レベルの化学，物理学，薬物学，鉱物学，植物学などの自然科学教育と化学実験を開始したと記録があり，分析窮理所遺構からはそれを裏付ける実験器具も発掘されている。また，分析窮理所遺構には1869年７月に来日し，予科である物理，化学，幾何学等の講義を担当したアントン・ヨハネス・コルネリス・ゲールツ博士[2]が分析窮理所に佇む写真（写真４）がパネルとして設置されている。ゲールツ博士は，東洋では初の医薬品規格書である日本薬局方初版の編纂に尽力したことで知られている[5]。日本薬局方沿革略記には「オランダ人ドクトルゲールツ」と記載されているため薬学関係者はドイツ語読みのゲールツと記載することが多い。これは日本薬局方略記[5]に「明治10年編述の旧稿によらず，別にドイツ文をもって日本薬局方稿本を起草することを議決し」とあり同じく編纂にあたった「ドイツ人ドクトルベルツ」などと統一した読み方で記載する必要があったためドイツ語読みになったものと推察される。今回，長崎大学医学部や長崎市の関係者との議論により，遺構パネルにはゲールツ博士の出身国のオランダ語読み方でヘールツと記載された。国内薬学部の起源を整理すると，長崎大学薬学部は，金沢大学薬学部と共に江戸時代に遡り，国内薬学部で最も古い歴史を誇る（表１）。表２に発掘後の調査で議論され，分析窮理所跡地に設置されたパネルに記載された小島佐古地区における長崎大学医学部・長崎大学病院・長崎大学薬学部およびハラタマ博士やゲールツ博士の動きを中心に記載した年表を示す。1869年に

写真２　分析窮理所遺構移設完了の記念イベントでの仁田佐古小学校の生徒や地域住民に対する講演（2022年６月20日）

写真３　黒い背広のクーンラート・ハラタマ博士

「長崎大学附属図書館所蔵」本写真の無断複製・転用を禁止します。

写真４　分析窮理所に佇むゲールツ博士

「長崎大学附属図書館所蔵」本写真の無断複製・転用を禁止します。

開校しハラタマ博士が教頭を務めた大阪舎密局は京都大学の前身となった。ゲールツ博士は1875年に京都司薬場の監督の任にある中，日本薬局方草案作成の内命を与えられ，1877年には開港場として発展していた横浜に設置された横浜司薬場に転じながらも，オランダ語の草案をほとんど１人で手書きの４冊として完成させ，1877年に提出された[6]。しかし，1883年に急性の病により横浜の地で40歳の生涯を閉じた。日本薬局方はその後も編纂作業が続けられ，1886年６月25日に初版が公布された。なお，長薬同窓会の寄付で1990年に建設された「柏葉会館」は，その建物の形は分析窮理所（写真５）をイメージしたと長崎薬学史を編纂した際の資料を掲載した薬学部ホームページに記載があり[7]，長薬同窓会では分析窮理所を起源とすることについて当時から強く意識されていたと考えられる。この度，分析窮理所遺構の発掘調査により長崎大学医学部，長崎大学病院，長崎市の専門家・関係者と共に歴史的意義の再評価が行われた結果，長崎大学薬学部の起源であることが確認され，遺構に記念碑と年表が建立されたことの意義は非常に大きい。

表１　国内薬学部の発端と発端時の名称（発端が古い順から６校まで）

	発端	名称
長崎大学薬学部	1865	分析窮理所
金沢大学薬学部[a]	1867	舎密局
東京大学薬学部[b]	1873	第一大学区医学校製薬学科
東京薬科大学薬学部[c]	1880	東京薬舗学校
名古屋市立大学薬学部[d]	1884	私立名古屋薬学校
京都薬科大学[e]	1884	京都私立独逸学校

表２　長崎小島での分析窮理所の年表（分析窮理所に設置された年表をもとに作成）

西暦	主な出来事
1857	ポンペ　医学伝習を開始（長崎大学医学部の源流）
1861	養生所開設（長崎大学病院の源流） 医学所開設（長崎大学医学部の前身）
1862	ボードイン　養生所教頭着任
1865	ボードイン　分析窮理所新設（長崎大学薬学部の源流） 養生所・医学所を精得館と改称
1866	ハラタマ　理化学教師着任
1867	ハラタマ　江戸開成所に赴任
1869	ハラタマ　大阪舎密局開設 ヘールツ*　分析窮理所着任
1875	ヘールツ*　京都司薬場赴任
1876	長崎司薬場創設
1888	県立長崎医学校を第五高等中学校医学部と改称
1890	第五高等中学校医学部に薬学科設置（現長崎大学薬学部）
1891	浦上山里村の新校舎に移転

*日本薬局方沿革略記ではゲールツ

写真５　分析窮理所（写真中央の白い三角屋根の建物）
「長崎大学附属図書館所蔵」本写真の無断複製・転用を禁止します。

2000年４月，大阪大学・工技院大阪工業技術研究所・デルフト工科大学・ユトレヒト大学およびオランダ王立科学芸術アカデミーとの緊密な協力関係のもとで，日蘭友好400周年記念行事の一環として，日本への理化学の移植に多大の貢献を果たしたハラタマ博士の功績を記念し，同博士の名前を冠した「ハラタマワークショップ」が開催された。その後，日本とオランダで交互にワークショップが開催されてきた。2023年５月10～12日には大阪大学理学部・深瀬浩一教授，長崎大学薬学部機能性分子化学研究室・山吉麻子教授と薬品製造化学研究室・石原 淳教授をオーガ

ナイザーとし，オランダの化学者と共に「第７回ハラタマワークショップ」が長崎市ブリックホールで開催され（写真６），長崎大学薬学部から山吉教授，石原教授，川上教授などによる最新の研究成果について講演と討論が行われた。５月12日の閉会式では，パトリシア・ダンカース教授（アイントホーフェン工科大学）から次回ハラタマワークショップの開催に言及があり，分析窮理所－ハラタマ博士を縁として，今後も日蘭の学問的な交流を持続させる意向が示された。

写真６　長崎市ブリックホールで開催された第７回ハラタマワークショップ（The 7th Gratama Workshop）（2023年５月10－12日）

薬学史としても意義深い本遺構の長崎大学薬学部教育への取り込みについては，西田薬学部長の指示のもと2021年の前期科目「初年次セミナー」において，新入生に対して長崎大学薬学部への誇りを感じてもらうための「小島養生所跡資料館・分析窮理所跡地」や「下村脩名誉博士顕彰記念館」見学とその歴史的意義調査に関する能動的学習を含む，新たなプログラムの構築が行われ，現在，新入生は遺構見学を活用して，薬学史としても貴重な長崎大学薬学部と医学部が歩んできた歴史を学んでいる。

2023年４月長薬同窓会役員会において，本多雅幸幹事（昭62）より年に一回の分析窮理所記念碑の清掃活動が提案され，2023年度長薬同窓会理事会・総会でも承認された。本事業を実行に移していくため，山口会長と実践薬学研究室中嶋幹郎教授・副会長（昭57）からの依頼を受けて2023年８月26日（土）に川上教授・副会長は薬剤学研究室麓伸太郎准教授と共に分析窮理所記念碑を訪問し，土曜日夕方における記念碑周辺の状況を観察したが，仁田佐古小学校の門の中に記念碑が保存されており，門を開けて小学校の中に入ることが躊躇される状況であった。そこで本状況を山口会長と中嶋教授・副会長に報告した後，長薬同窓会事務局を介して分析窮理所記念碑の同窓会による清掃活動の可否について，仁田佐古小学校に対して問い合わせを行った。その結果，原則，平日や休日を問わず，門を開けて中に入ることは差し支えなく，事前に仁田佐古小学校教頭先生に日時の連絡をすれば清掃活動と写真撮影をして良いという回答が得られた。2024年度からの事業として具体的に清掃方法について議論していく予定である。９時から17時の時間帯であれば，分析窮理所跡地の近くに建設された「小島養生所跡資料館」の訪問ができる[8]。入場料は無料で毎週月曜日（祝日の場合は開館）と12月29日～１月３日が休館となっている。長薬同窓会の皆様も是非一度，長崎大学薬学部の起源である分析窮理所跡地に立ち寄ってみて頂きたい。

以上，分析窮理所遺構の発掘からの長薬同窓会の対応や完成した年表についての大まかについて説明した。遺構発掘当時，長薬同窓会長として本事業を主導して頂いた山中國暉元会長に心より感謝を申し上げる。また，分析窮理所遺構保存活動から年表作成，記念碑の建立に至るまでご協力とご配慮いただいた長薬同窓会，長崎大学薬学部，長崎大学医学部・長崎医学同窓会，長崎大学病院，長崎市の関係者の皆様に深く感謝する。分析窮理所の系譜を正式に受け継いだことを契機として，母校長崎大学薬学部が益々発展していくことを心より祈念したい。

参照資料

１．長崎大学薬学部　沿革
https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/outline/enkaku.html
２．長崎市ホームページ　長崎（小島）養生所跡
https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p030549.html
３．長崎大学医学部ホームページ 「小島養生所」遺構について
https://www.med.nagasaki-u.ac.jp/med/iko/
４．金沢大学薬学部ホームページ　沿革
https://www.p.kanazawa-u.ac.jp/educate/history.html#gsc.tab=0
５．第 18 改正日本薬局方　日本薬局方沿革略記
https://www.mhlw.go.jp/content/11120000/000788359.pdf
６．二宮一彌　日本薬局方物語　薬学図書館　39(1), 21-27, 1994
７．長崎大学薬学部ホームページ　沿革
https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/history/research/intro.html
８．長崎市ホームページ　長崎（小島）養生所資料館
https://www.city.nagasaki.lg.jp/shimin/190001/192001/p034438.html

参考資料

ａ．金沢大学薬学部 HP　https://www.p.kanazawa-u.ac.jp/educate/history.html#gsc.tab=0
ｂ．東京大学薬学部 HP　https://www.f.u-tokyo.ac.jp/about/
ｃ．東京薬科大学 HP　https://www.toyaku.ac.jp/about/history/
ｄ．名古屋市立大学薬学部 HP
https://www.nagoya-cu.ac.jp/70years/meishidai-history/academics/grad-phar/chronology/
ｅ．京都薬科大学 HP　https://www.kyoto-phu.ac.jp/compendium/history/

長崎大学ホームカミングデー2023

松尾　洋介（平15）

令和５年11月４日に長崎大学ホームカミングデー2023が開催されました。ホームカミングデーは，世代や学部を超えた同窓生との新たな出会い，旧友との再会，現役の長崎大学生との交流等を通じて親睦を深めていただくことを目的として毎年開催されております。今年も長崎大学学園祭で賑やかなキャンパスの中，開催されました。

第一部は文教スカイホールで行われ，はじめに本年10月に第16代学長に就任されたばかりの永安武 学長・校友会会長により挨拶ならびに新学長のビジョンについて説明がありました。その後，相川忠臣 名誉教授への校友会賞表彰，西遊基金高額寄付者への感謝状贈呈が行われました。

極東ファディ株式会社代表取締役社長の秋本修治 氏（経済学部卒）により「劇的に変わりゆくコーヒー業界とファディのコーヒー戦略」と題して講演会が行われました。一般消費者向けの自社焙煎コーヒー豆と冷凍食品の専門店「ファディ」を北部九州から山口を中心に23店舗展開しており，長崎にも時津店があります。ファディは他のコーヒー会社とは異なり，コーヒー豆の契約農園から焙煎，鮮度管理までこだわっていること等，大変興味深い話を聞くことができました。

その後，バンコク会場とオンラインで接続して長崎大学グローバル・アルムナイ・ネットワークアンバサダー第１回就任セレモニーが行われ，最後に第４回長崎大学フォトコンテストの受賞作品発表とともに表彰式が開催されました。

第二部では生協食堂１階にて卒業生・在学生・教職員等交流のための懇親会が行われ，アトラクションとして変面ショーが行われました。

ホームカミングデーは来年も開催される予定です。機会がございましたら是非ご参加下さい。

永安武 学長

秋本修治 氏

支　部　だ　よ　り

●● 関東支部 ●●

支部長　　**原　　正朝**（昭60）

今年の関東支部総会は11月11日（土）14：30より，日本橋のイタリアンレスラン アレグロで開催しました。2020年からは新型コロナ感染症の拡大により関東支部の活動は休止していましたので，2019年10月以来４年ぶりの開催となりました。同窓会本部から，長薬同窓会副会長中嶋幹郎先生（昭57）にご参加いただきました。参加者は，昭和の卒業生17人と平成の卒業生24人の計41人です。平成最後の卒業生倉永朱さん（平31）が一番若い卒業生でした。関東支部には650人の会員が在籍しており，総会の出欠連絡方法が課題でしたが，参加者へは封書で案内状を送付し，出欠連絡はGoogle formで行いました。メールアドレスを記載していただき，参加者には事前にメールで連絡することができるようになったりと，参加者の把握も効率的にできるようになりました。総会は加藤恵介幹事長（昭62）の司会進行により進められ，この４年間にお亡くなりになった会員15名への黙祷の後，中嶋幹郎先生から長崎大学薬学部の起源分析窮理所遺跡発掘から記念碑建立までの流れについて説明がありました。当時は創立100周年を記念して建築された柏葉会館の屋根は，分析窮理所の屋根をかたどって建築されたそうです。詳細は長薬同窓会報の川上茂先生（平７）の寄稿文をご覧ください。総会の後，谷 覺先生（昭42元関東支部長）による乾杯により，懇親会が始まりました。懇親会では，皆さんから近況報告があり，皆さんの活躍ぶりを伺うことができました。喉も潤ったころに，平成30年卒野球部キャプテンの米澤敬大さんの「流星 落ちて住むところ 橄欖の 実の 熟るる里」で始まる巻頭言につづいて，校歌斉唱を行い大いに盛り上がりました。最後は，倉永朱さんの一本締めでお開きとしました。来年は令和の卒業生の参加を期待し，三世代にわたる卒業生により，長薬同窓会が発展していくよう活動を続けてまいります。

参加者

中嶋　幹郎（昭57院昭59）	緒方孝一郎（平１院平３）
谷　　覺（昭42）	四本由美子（平１院平３）
西村　正邦（昭44院昭46）	山﨑　幸雄（平１院平３）
渡部クリ子（昭48）	森川　慎也（平２院平４）
多田　和子（昭48）	松下　陽子（平３）
平田美恵子（昭48）	津藤　佳子（平３）
梶村　　博（昭50）	五十嵐義晃（院平４）
梶村　郁子（昭50）	清水　志保（平６）
田邉早百合（昭50）	川村　澄子（平６）
三島みずほ（昭50）	宇佐　昌芳（平７院平９）
吉岡　優子（昭56）	石橋　紀久（平11院平13）
中島　敏樹（昭57）	増尾真希子（平11院平13）
水島久仁子（昭58）	高橋　圭介（平13院平15）
中島　徳子（昭59）	鈴木　秀明（平14院平16）
原　　正朝（昭60）	新田　由美（平15）
髙橋　　薫（昭60）	平井　聖人（平19院平21）
加藤　恵介（昭62院平１）	川上　文徳（平21）
武内　富紀（昭62）	沖田　　啓（平29院平31）
高橋　久美（平１）	米澤　敬大（平30）
森尾　初美（平１）	鎭田　頼直（平30）
武藤智恵子（平１院平３）	倉永　　朱（平31）

令和５年11月11日　於 イタリアンレストラン「アレグロ」

●● 近畿支部 ●●

＃同窓会は認知症*予防に有効か？

支部長　　**末澤　克己**（昭47）

標題の質問を生成AIに訊きましたら，以下のような『回答』がありました。

『この質問に答えるために，最近の研究を紹介しよう。同窓会とは，同じ学校やクラスで学んだ仲間との再会のことである。同窓会に参加することで，昔の思い出を共有したり，新しい情報を交換したり，社会的なつながりを強化したりすることができる。これらの活動は，認知機能の維持や向上に役立つと考えられている。実際，同窓会に定期的に参加する人は，参加しない人よりも認知症の発症率が低いことが，ある研究で示された。同窓会に参加することで，脳の神経回路が活性化され，記憶力や判断力などの認知能力が高まるという仮説が提唱されている。同窓会は認知症予防に有効なのかもしれないが，同窓会だけではなく，他の社会的な活動も重要であることを忘れてはならない。認知症予防のためには，多様な刺激を受けることが必要であり，同窓会や趣味やボランティアなどの活動に参加することが望ましい。』　なんちゃって・・・ほぼ，誰でもが頷かざるを得ない回答でしょうかね。

皆さん，同窓会に参加しましょう！わたくしも同窓会には可能な限り皆勤を目指します。

６月17日総会【大分】，10月21日昭43年入学昭47年卒クラス会【下関】，これらに関して本誌別稿でも言及されていることと思います。ここでは，コロナ禍等のため暫く休眠していました近畿支部同窓会について，「とにかく，一度集まりましょう」を合い言葉に，４人の近畿支部幹事が久しぶりに顔を合わせ，支部活動の再開に向けての小さな一歩を踏み出しましたことをご報告させていただきます!!

さらに詳細は　検索

https://choyaku.net/kinki/index.html
長薬同窓会近畿支部のサイトへ

＊認知症高齢者数：2025（令和７）年には約700万人（65歳以上の高齢者の約５人に１人）と推計（厚生労働省）・・・・・皆さん，同窓会に参加しましょう！

「とにかく，一度集まりましょう」を合い言葉に，４人の近畿支部幹事が大阪梅田 シンガポールクラブにて近畿支部会再開を誓いました！　2023.8.19

●● 北九州支部 ●●

次年度総会は長崎と縁深い北九州です!!

支部長　　**増田　和久**（昭50）

北九州支部では2018年に支部会を開催して以降，コロナ禍もあって休眠状態でした。世の中がポストコロナへと向かう中，今年こそは開催をと思っていた矢先，山口会長より次年度の長薬同窓会総会を北九州支部で担当してもらえないかとの電話がありました。この際は総会に乗っかって支部会をと考え，引き受けた次第です。令和６年６月１日に「ステーションホテル小倉」にて開催します。アクセスが良いので是非大勢の同窓生の参加をお待ちしております。

思えば北九州と長崎の間には深い縁があります。一つは，昭和20年８月９日の長崎への原爆投下に至る経緯です。第一目標は旧陸軍造兵廠のあった小倉になっていました。しかし前日８月８日に官営製鉄所のあった八幡が大空襲に遭い，小倉の上空は煙に覆われ視界不良でした。やむなく爆撃機は第二目標の長崎上空へと向ったわけです。

その事実を省み，北九州市は被害者の霊を慰め平和を祈念するため，投下目標地であった勝山公園内に慰霊碑を建立しました。長崎市から贈られた「長崎の鐘」の複製も設置されています。毎年８月９日には原爆犠牲者慰霊平和祈念式典を開催しています。参列者は長崎の方角を向いて黙祷し平和を誓います。

ただ，こう言う思いを踏みにじるかのように「ウクライナ」や「ガザ地区」では戦争による人道危機が続いています(2023年10月現在)。核使用へのエスカレートも危惧されています。過ちが繰り返されないことを祈るばかりです。

もう一つは，小倉と長崎を結んでいた長崎街道です。小倉の常盤橋を起点に黒崎，木屋瀬，内野（飯塚），原田，佐賀，塩田，嬉野，大村，永昌（諫早），日見等の宿場を経て長崎に至る57里の街道です。ご承知の通り，徳川幕府が鎖国体制を敷いていたなかで唯一，海外への窓口を開いていたのが長崎です。海外からの人物・知識・文化が流入するため，長崎街道は貴重な“文明ロード”

となっていました。毎年，参勤交代の大名行列やオランダ商館のカピタン行列，長崎奉行たちが小倉から船で関門海峡を渡り，江戸との往復をしたわけです。

さらに，当時日本では貴重であった砂糖も長崎から輸入され，長崎街道を通って運ばれました。その砂糖が街道沿いの食文化に多大な影響を与え，カステラ，羊羹，丸ボーロ，鶏卵そうめん等が誕生したのです。また，虎やキリン，ラクダ，孔雀，七面鳥等の海外の珍獣も長崎街道を往来しました。中でも，スーパースターは1728年に時の将軍吉宗のリクエストで来日したベトナム象です。２カ月半かかって江戸に到着し，将軍や諸大名の前で曲芸を披露しました。

このように長崎と縁の深い北九州での同窓会総会にお越しくださり，合間に原爆慰霊碑や常盤橋への訪問をご一考いただければ幸いです。

最後に，先日の支部役員会にて増田から千代丸康重氏（平５，院平７）への支部長交代が了承されました。私事，在任期間，十分な活動も出来ず反省しきりです。是非，次年度以降は新支部長の下，支部活動が活性化されん事を祈念いたします。

勝山公園内の「長崎原爆慰霊碑」

長崎街道の起点「常盤橋」

福岡支部浦陵会

福岡支部浦陵会の会長として

会長　　池田　光政（昭57）

支部長（会長）をしています池田です。私は，県庁薬務課長から公益財団法人の理事長を経て，７月から福岡県薬剤師会会長付として，県庁等の行政機関や医師会等関係機関との調整を主な業務として働いています。

コロナも二類から五類となり，行政や医療機関での対応や国民の意識が変わるとともに海外からの観光客等が増加しています。

このような中，福岡支部浦陵会の開催も考えていたのですが，寄稿文を書いてる８月時点では，感染者が増加しており，医療機関や薬局では通常の業務の他，感染者に対する業務が増えていることを考慮して，今年の開催はあきらめることにしました。来年は，開催する方向で関係者と調整していきます。

さて，現在会長となって10年近くになりますが，各支部開催についていろんな苦労があっていると思いますので，本支部の現状を紹介させていただきます。

どの支部も，どうやったら総会に，多くの会員が参加してもらうか。幅広い年代の方に参加してもらうか。女性や若者が多く参加してもらえるか。ということをいつも考えておられると思います。

年一回だけの集まりは知らない人が多く，それに会費を出すことに抵抗がある方が多くいることが主な理由と考え，私もこの課題に対処するため，日頃から会員同士が親睦を深めるため懇親会を開催したり，女性や若者に対しては，少し会費を割引したりしました，その他，県庁課長時代は，病院や薬局等に行くときに大学卒業者を紹介してもらい総会にでるよう働きかけていました。

最初は，少しうまく行ったと思ったのですが，その後なかなか広がりませんでした。総会は，コロナで中断しましたので現状はさらに悪くなっていると考えています。いつも協力して集まってくれる方の総会と考えた方がいいのか，今後ともいろんな施策を実施して行くのかを考える時期に来ていると思っています。各支部の支部長をはじめ関係者の皆様，いい知恵があれば御教授ください。

現在，薬剤師会で働いていますが，行政から離れて５年近く，法改正も含め，薬局の姿も過去と比べて大きく変わろうとしています。大学卒業生の方の多くは，病院や薬局で薬剤師として働いていると思いますが，行政を経験して薬剤師会で働いている立場から少しコメントさ

せていただきます。

厚生労働省では，患者のための薬局ビジョンで薬局の方向性を示し，健康サポート薬局を進めるため厚生労働省規則改正と告示の制定を行いました。さらに，地域連携薬局と専門医療機関連携薬局の認定制度を設けるため薬機等法の改正を行いました。

この一連の改正で，薬局は，処方箋調剤を主とする機能から，医師，歯科医師，看護師，介護関係者等と連携して，急性期や慢性期における在宅医療・介護においての服薬指導や医療用品の供給　ＯＴＣ，健康食品，医療機器の供給を通じて患者や健康人に対する健康サポート機能の業務に変化しています。

このような業務に対応するためには，複数の薬剤師が必要となっています。また，保険証やお薬手帳などの電子化いわゆる医療ＤＸを進めることが必要ですし，さらに医療計画に定められている，がん，高血圧，糖尿病等薬剤師の専門性を高めることが必要となります。

このような状況を踏まえると，個人薬局からチェーン薬局へのシフトが益々加速されることが予想されます。

今後，自分自身もこのことを重く受けとめ，業務に対応していこうと考えています。職場は，福岡市博多区の県薬剤師会館ですので，近くに来られたら寄ってください。

●● 大分支部 ●●

支部長　**石橋　　眞**（昭49）

今年は猛暑続きの毎日でしたが，ここに来て（10月初旬）朝晩は冷え込む季節となりました。８月中旬，同窓会報「支部だより」への寄稿のお願いを受け取って，９月に入りそろそろ準備に取り掛かろうかと思っていた矢先体調を崩し，原稿づくりがストップしてしまいました。そして何とか体調も回復し，筆を走らせているところです。

令和５年度長薬同窓会定期総会・懇親会はコロナ禍の中，開催について不安もありましたが，６月17日（土）レンブラントホテル大分（大分市）にて開催できました。大分支部での開催は平成24年別府市で行って以来11年ぶりで，懇親会については，令和元年の近畿支部以来４年ぶりの開催となりました。なお，懇親会は大分支部が担当致しましたのでご報告させて頂きます。今年５月８日に新型コロナウイルス感染症の法的位置付けが２類から５類へと見直されましたが，長い間のコロナ禍の影響により参加者は前回より少なめになりました。しかしながら新型コロナウイルス感染症もまだ収束していない状況の中，関東支部や近畿支部など遠方からの参加者も含め43名の多くの方々にお集まりいただきましたことは，本当に有り難いことであり，大分支部を代表して感謝申し上げます。懇親会は，久壽米木洋子さん（平４）の司会により進められ，大分支部を代表して石橋眞が歓迎の言葉を申し上げ，開幕しました。来賓の長崎大学薬学部長の西田孝洋教授にご祝辞を賜り，そして我々の誇りである下村博士と同級生で最後の薬専卒業生である西川恭夫大先輩（昭26）の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。Ａ～Ｇの円形テーブル（６～７人掛け）に分かれ，料理やお酒を楽しみながら，会場も和やかな雰囲気となり会話も弾んでいく中，今回の目玉アトラクションとしてミスターシュガー（本名：佐藤）さんや息子（高３）さん親子による変面ショーが行われました。仮面が一瞬にして変わる中国伝統芸能です。インパクトのある音楽とともに鮮やかな衣装を身に付け登場。踊りながら手や扇を顔にかざした瞬間にお面が変わっていく様子に皆様方大喜び，テーブル近くに舞い降りて演技する姿に大興奮でした。ある人曰く，「どうして瞬時に変わるの？種は考えても分からないが謎のままがいいよね」別の人，「変面ショーを始めて見たけど凄い踊りだね～。近くだと迫力満点」などなど。この変面ショーで会場の雰囲気も大いに盛り上がりました。またミスターシュガーさん親子はボランティアで各地域のイベント等に出ておられます。今回も格安の出演料で踊っていただきました。ありがとうございました。

ところで，長崎大学薬学部名誉教授の古川淳先生（昭25）は足がご不自由にもかかわらず，お嬢様と一緒に出席していただきました。お嬢様も最後まで談笑され，校歌も一緒に歌い，楽しいひと時を過ごしていただいたと思っています。厚くお礼申し上げます。なお，祝宴の途中，古川先生から10分ばかり話しをさせてくれとのことで「長薬の歴史や思い出話し」をしていただきました。先生は96才になられ，最近足腰が弱っているそうですが，しっかりした口調でお話をされ，まだまだ百寿までは同窓会に出席していただきたいものです。そして宴たけなわになったところで校歌斉唱となり，斉唱前に「巻頭言」を若松正人君（平１）にお願いしました。野球部仕込みの堂々たる巻頭言（全員で合いの手，オーッスを入れる）に聞き惚れながら薬学部校歌を熱唱しました。若松君の巻頭言はこれまで何度も聴いていますが今回のは一段と気合が入っていて例年以上に素晴らしい歌になっていました。お疲れ様でした。楽しい宴はあっという間に過ぎ，締めとして山瀬敬治君（平19）による一本締めで盛会のうちに終了となりました。

なお，遠路長崎から参加していただきました本部役員の方々そして準備及び当日の受付進行に際して頑張って頂きました本部事務局の中島園子さんはじめ大分支部の担当の皆様方にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

司会者

変面ショー１

変面ショー２

変面ショー3

テーブル（談笑）

テーブル（談笑）

テーブル（じゃんけん）

巻頭言

校歌斉唱

一本締め

●● 熊本支部 ●●

令和５年度長崎大学薬学部同窓会熊本支部会報告

支部長　　**山本喜一郎**（院昭55）

令和５年度の熊本支部例会は，９月の第一土曜日である９月２日（土）にアークホテル熊本城前にて，出席者11名で開催しました。

令和元年末の新型コロナウイルス感染症の世界的流行をうけて，令和２年度から支部例会開催を控えていたのですが，今年５月新型コロナ感染症の感染症法上の区分が５類相当に移行したことから，事務局の松尾富士男くんと相談の結果，４年ぶりに支部例会を開催することにしました。参加者が集まるかどうか心配していましたが，開催案内を送付したところ11名の参加者があり，ホッとしました。直前に古川真一（昭54院昭56）くんが体調不良で不参加となり10名の参加となりました。

開会の挨拶の後，同窓会副会長の七種 均先生から最近の長崎の状況や長崎大学薬学部の近況を話していただきました。長崎新幹線の開通による長崎駅周辺の様変わり，また，県庁や市役所の移転については驚かされました。

このあと乾杯の音頭を宮崎さんにお願いし，会食・歓談となりました。宴半ばから恒例の近況報告です。私山本は，２年前から完全な年金生活者となり，明け方近くに就寝して起き出すのは昼前という学生時代に逆戻りしたような生活スタイルになりました。宮崎さんは，今年大分での同窓会総会で恩師の古川先生が出席されていたのに刺激をうけ，支部会にも出席せねばと決意を新たにされたとか。現在は明正病院への勤務は週４日程で週２，３回ゴルフを楽しまれているそうです。岩下さんは，昨年隣の空き家から出火して，店舗，住宅に延焼した影響で，残念ながら薬局は閉局して跡地に住宅を再建されたそうです。今はご主人と二人で旅行を楽しんでおられるとのことです。秦野さんは，アステムを今年退職され，奥様も薬剤師を辞められて，故郷の大分と熊本を往き来するかたわら，散歩と晩酌中心の自由な生活を満喫されているとのこと。木山夫妻は娘さん二人が結婚されて肩の荷が下り，お二人でゴルフ三昧の生活を楽しまれているそうです。例会の日の朝もゴルフされて来たとのこと。久しぶりに参加の上村さんは，再春館製薬所からリバテープ製薬へ移られて後進の指導に励んでおられるとのこと。松尾くんは今年３月に統計の仕事でコロンビアとコンゴに行ってきたそうです。コンゴでは内戦の関係で大変な思いをしたとのこと。徳田さんは，仙台に住む二人のお孫さんとのふれあいを楽しまれているようです。薬局へはパートで働きながら週に１回は八代に通って実家のお世話をなさっているとか。中嶋さんも久しぶりの参加でした。崇城大学で学生の病院実習の担当だったので，コロナ禍で実習スケジュール調整，特に病院との調整に苦労されたそうです。ズームで対応したこともあるとのこと。

最後に記念撮影をして楽しい雰囲気の中閉会しました。

長薬同窓会熊本支部の皆様，例会は毎年９月の第一土曜日に開催していますので，是非ご参加下さい。ちなみに，来年は９月７日（土）の予定です。また，他支部の方で，当日熊本にいらっしゃった方も大歓迎ですので，山本までご連絡下さい。

参加者

七種　均 副会長（昭56）	上村　康子（昭58）
宮崎　賢三（昭50）	木山　雄一（昭59）
岩下　淑子（昭52）	中嶋弥穂子（院昭61）
山本喜一郎（院昭55）	松尾富士男（昭59院昭61）
秦野　正敏（昭56）	徳田　道代（昭60）
木山　容子（昭57）	（敬称略）

後列左より，木山，秦野，七種，山本，宮崎，松尾
前列左より，上村，木山，岩下，徳田，中嶋（敬称略）

●● 長崎県北支部 ●●

支部長　　**相川　康博**（昭48）

令和５年10月22日午前11時30分から，佐世保ワシントンホテルにおいて，実に５年ぶりに支部同窓会を開きました。新型コロナが少し落ち着いたとは言え，開催するか否か随分迷ったすえに，開催することを決心しました。

このような状況で久しぶりの開催とあって，参加も少ないだろうなと予想したのですが，良いほうに見込みが外れて12名の会員に参加していただきました。そして，同窓会からは山口正広会長に来ていただきました。

初めに，この間に亡くなった４名の会員，増崎正次郎（昭19），白川學（昭23），塚本實（昭24），林田匡代先生（昭36）に対して黙祷を捧げました。

会を始めるにあたり，私から挨拶と会計報告を行いました。今年大分市で行われた長薬同窓会総会に出席してきて，来年は北九州で，３年後は佐世保でやる段取りになっていることを報告しました。来賓の山口同窓会会長から，挨拶に続いて同窓会と薬学部の最近の状況について，各人に配布された資料をもとに詳細な報告がありました。次回同窓会は北九州支部で，その翌年は長崎支部，その次はこの支部でやることになっていることが報告されました。

冒頭のセレモニーを終わり，食事の前に前庭をバックに全員の集合写真を撮ることにしました。無事写真撮影も終わり，乾杯の発声を出席者名簿先頭の昭和34年卒松尾幸子先生にしていただき，お待たせのランチ２時間タイムコースで食事をしながらの歓談の時間に移りました。料理は和風の会席料理ですが。

しばらく料理を堪能してもらった後，自由に着座してもらっていた席の順番で，いつも通りにそれぞれの近況を報告してもらいました。

松尾幸子先生が，現在は長崎大学附置熱帯医学研究所となっている，1942年に開設された長崎医科大学付属東亜風土病研究所にずっと勤務していたときの話をされました。ウイルスの研究を続けてきた中で，周りに王冠のような形をした棘が出ているウイルスが見つかり，その形状からコロナウイルスと名付けられたが，今を賑わせている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は，コロナウイルス２（SARS-CoV-2）による感染症であることを，熱を込めて説明していただきました。

若い人の参加がないことが問題で，どのように対策したらいいのか，まず一本釣りしてその周りを増やすことが必要ではないかとの案も出されました。知恵の出しどころだと思います。ともあれ，３年後佐世保開催の同窓会総会は，前回のように準備委員会を作って，その中に若い人を入れてやろうということで何となく決まりました。

２時間経って会計用のプレートをホテル担当者が持って来られたので，会を閉めようかということになり，昭和41年卒の松本功治先生に万歳三唱の音頭をとっていただくことになり，皆声高らかに万歳をして会をお開きとしました。次回は，もう少し参加者が増えればいいな，特に平成卒の若い人の参加が増えればいいなと思います。

出席者（12名）

松尾幸子（昭34）	田代佐夫子（院昭48）	山口　拓（平８）
松本功治（昭41）	相川康博（昭48）	秀島久見子（平12）
護山順子（昭44）	宮田節子（昭48）	中村沙織（平16）
島田志津枝（昭45）	橋本次男（昭50）	中村心一（院平17）

●● 長崎県県央支部 ●●

事務局　　狩峯　　寧（平31）

長かった夏が過ぎ行き秋の訪れが感じられはじめた令和５年10月15日（日）11時30分から，諫早市の中心部にありますホテルグランドパレス諫早にて，長薬同窓会県央支部総会が開催されました。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行を受けて令和２～４年度は開催できていなかった本総会ですが，令和５年５月８日に新型コロナウイルス感染症の感染症予防法上の位置づけが５類感染症へと引き下げられたこともあり，実に４年ぶりとなる総会を開催することができました。

なお，本総会におきましては，参加者の座席の距離をとるなどといった，感染防止対策をとりながらの開催であったことを申し添えます。

総会は，平山文俊先生（昭41）をはじめ総勢12名の同窓生が一堂に会しました。司会は西村昇支部長（昭50）に執り行っていただき，県央地区ご在住の山口正広長薬同窓会長（昭56）に来賓としてご出席いただきました。山口会長からは同窓会長挨拶を賜わった後，引き続き山口会長から令和５年度定期総会報告のほか，長崎大学薬学部の現状として，長崎大学薬学部の校舎の変遷を含めた歴史をはじめ，直近の入学状況や卒業生の進路についてご説明がありました。また，今後の同窓会の活動予定として，同窓会関連施設の記念碑の清掃活動や，長崎大学薬学部160周年（135周年）記念事業（仮称）のご紹介がありました。

校舎の変遷についてのご説明の中で，長崎医科大学付属薬学専門部時代の門標のお話をいただきました。私は学生時代，医薬品情報学研究室（川上茂教授）に在籍しており，坂本キャンパスのうち，歯学部や医学部保健学科をはじめとした長崎大学病院側のキャンパス（長崎市坂本町１-７-１）にて研究に勤しんでおりましたが，当時昼食を食べに毎週のように通っていた医学部医学科のキャンパス（長崎市坂本町１-12-４）に行く道中の階段のふもとの門標であると気づき，驚くとともに学生時代の思い出に浸ることができ，大変懐かしく感じました。

集合写真撮影後食事となり，会務報告ののちの自己紹介の際には，近況報告として各々のお仕事の現況や取り組まれている平和活動をはじめとした地域貢献活動について述べられ，また思い出話にも花が咲き，大変楽しいひとときを過ごしました。

最後に，最年少出席者である狩峯（平31）により，皆様のご多幸と県央支部のますますの発展を祈りつつ一丁締めにて総会を締めくくりました。

次回の総会では，今回ご都合がつかずご出席がかなわなかった皆様も含めて開催できることを願っています。

出席者（敬省略）
来賓，同窓会長　山口正広（昭56）
平山文俊（昭41）　西村　昇（昭50）　池田理恵（平13）
内田民子（昭44）　佐藤恵子（昭52）　西岡雄一（平19）
中村和子（昭44）　山口綾子（昭60）　狩峯　寧（平31）
田中秀二（昭46）　藤原晶子（平２）

●● 長崎支部ぐびろ会 ●●

令和５年度ぐびろ会活動報告

会長　**澤勢　瑞城**（平15）

去る令和５年６月24日土曜日，昨年に引き続き今年もぐびろ会総会は対面でホテルニュー長崎にて開催されました。ご支援を賜った皆様には厚く御礼を申し上げます。

さて，新型コロナウイルス感染症発生から３年が経ちそのような中で新型コロナウイルス感染症の位置づけは，これまでの「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる２類相当）」から令和５年５月８日からは「５類感染症」となり，法律に基づき行政が様々な要請・関与をしていく仕組みから，個人の選択を尊重し，国民の自主的な取組をベースとした対応に変わりました。

久しぶりに制限なしでの開催にも関わらず，総会の出席者は伸びず，コロナ禍での後遺症で集まりやイベントに対しての抵抗感や若い世代にとっては同窓会の意義そのものに対しての疑問など，ひとえに私の努力不足によるものですが，そのような中での開催となりました。

ただ明るい材料もありました。現役で学部５年生の本田隼生くんが総会中締めの万歳三唱を見事につとめてくれました。総会では来賓でお越しいただいた一般社団法人長崎市薬剤師会の上田会長と基調講演で講演してくださった長崎大学病院教授　大山先生とぐびろ会の中でトップレベルでの薬薬連携の交流を見ることできました。

また総会でご承認いただいた私の肝いりのイベントCHUKI*CHUKI交流会（OBと学部生の交流を目的とする参加費無料の懇親会。11月25日土曜日13時から長崎大学生協２階にて）も開催が決定し，こちらは学部６年生黒岩くんと松尾さんを中心とする６年生７名が中心メンバーとなって協力頂きこちらの原稿の執筆時にまさに開催への協議を行っているところです。今後も同窓生の皆さん，学部生の皆さんが同窓会のあり方に意義を感じてくれるようなイベントを模索していこうと思います。来年はこちらの交流会の様子を報告することができればと思っています。

クラス会および近況だより

最近思うこと

富安　一夫（昭34）

昭和34年卒（三葉会）の富安一夫です。学年幹事の松尾幸子さんから同窓会報に何か原稿を書くように依頼がありました。確かにここ数年新型コロナウイルスの蔓延等の事情でクラス会も開催できず活動報告が難しい状況にあります。同窓会活動報告ではありませんが，個人の生活を中心に最近の状況報告いたします。

先ず最初は私たちの年齢が80歳台後半を過ぎてもう晩年にさしかかっています。コロナの問題がなくても外出は減少するし人と会うことも稀になりました。先日の総務省の人口推計によると日本の総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は29％を超え，80歳以上の人口は初めて10人に１人に達したそうです。老齢化の進行で今回のコロナワクチン予防接種でも感染リスクが高くかつ重症化しやすい年代に指定され積極的な対策が講じられました。我々の年代では社会的に動きにくい時期でもありました。コロナだけでなく老化に伴う健康上の問題もあり我々がみんなで集まる機会や機運も減退する一方となっています。それでもクラスの何人かはまだ元気で活動している仲間もいますから又会える日を待ち望んでいます。私も非活動の中で一応元気で生活していますがその中で感じた現状を述べてみたいと存じます。

昨年秋頃コロナ禍の勢いが小休止したことがありました。この機会に久留米へ友人の墓参りに東京から出かけました。何年かぶりの遠方に外出した時の印象です。コロナは特に老人に危険だと言われていたので，私が住んでいる東京都の多摩市（ニュータウンでしたが今や老人が多数の街です）から都内でさえ出たことはありませんでした。昨年末の外出の際は市街地の環境の変化に驚きました。街中の変化には目を見張るものがありました。この時期にオリンピックを開催したくらいですから当然でしょうが先ず交通機関の変化です。路線，相互乗り入れ，駅舎の新設等が頻繁で乗り換えも今までとは異なっていました。駅舎の新設や改築等に合わせて街中の建物も建て直され５，60階のビルも珍しくなくなり今や駅を降りても迷うばかりです。特に東京では都市計画や再開発計画に伴う改築が進行中で渋谷周辺や東京駅周辺はもう一人では歩けないと実感しています。

東京だけでなく長崎でも同様な印象をうけました。昨年秋の外出の際，長崎にも立ち寄り旧友の松尾幸子さん，松尾昌代さんともお会いできました。お二人ともお元気でよかったです。懐かしいひと時でした。この時の長崎の印象です。行きは飛行機，戻りは新幹線でした。空港バスで長崎市内に入りますが夕方で薄暗かったのですが窓から見た市内の印象はかなり変化して見えました。浜の町周辺ではあまり都会の中心の感じはしませんでした。バスが県庁跡横を通過するときはどこを通過しているかわからなくなりました。次に驚いたのがバス停です。新幹線駅舎の改築中だったからで，旧ＪＲ駅の工事中の道路横で下車させられ長崎の玄関口のバスの乗降口ではなく普通の路線バスの標識が立っているだけでした。昔の長崎駅前のバス乗り場も終点ではなくどこかに行っていました。工事中だからでしょうが長崎到着の印象は工事が多い東京と変わりない変化でした。

更にいうと翌日は新幹線に乗りましたが，長崎駅自体は工事中で，旧駅舎の真裏も工事中でした。次は西九州新幹線（かもめ）の印象です。前年の９月に開業していて１年目位です。その割には周辺の整備がかなり遅れている感じがしました。もうその時から又１年たつので現在は随分進捗したとは思いますが。西九州新幹線の印象はよかったです。長崎駅と乗換駅の武雄温泉駅を最短20分で結び，博多駅まで１時間20分で結ぶそうです。事実武雄温泉駅まで20分で着いたことには速さに驚きました。新幹線の車体や乗り心地はよかったです。途中で乗り換えが必要な事と料金が高い新幹線を使ってのメリットは将来の検討事項のようです。私は長崎駅から武雄温泉駅（在来線特急リレーかもめ）で乗り換えて一旦新鳥栖まで行き所用を済ませて，更に在来線で博多駅に行きました。新幹線が乗り換えを含めてきわめてスムーズであった半面，在来線接続とか乗り換えとかサービスが少し気がかりになりました。在来線しか使わない沿線の住民は不便になったと思います。個人的見解ですが僕なら利用回数によりますが長崎・博多往復ならバスの利用も考えたいと思います。

次に生活の変化で驚いたことは薬の一包化です。私も生活習慣病もあり病院に通っていますが薬の飲み忘れが多く薬がたまりがちになりました。そこで調剤薬局で勧められてかかりつけ薬剤師と薬の一包化を利用することとなりました。自分が薬剤師でありながら自分自身の服用に無頓着なところがあり反省していますが，確かにこの制度を利用すればかなり解決すると実感しました。薬剤師諸兄姉の努力の結果でしょうが社会は進歩しているなと痛感しています。薬局では一包化だけでなく処方箋発行の医師と交渉もしてくれて大変助かっています。新型コロナの流行や高齢化の真ん中にいて不自由な生活を

強いられていますが社会は進歩していることをつくづく感じている毎日です。

外出ができなかった理由として異常気象に伴う災害です。ここ数年大雨洪水による災害が全国で発生して社会が不安定化しています。そのうえ真夏日の増加による異常気温が続きました。老人にとってますます外出を控えることとなりました。来年はどうか落ち着いた年になり九州・長崎方面に旅行できればと願っています。

昭和45年卒同窓会を終えて

伊藤（尾上）充代（昭45）

９月２日（土曜日）に北九州市小倉にて同窓会を無事開催することができました。振り返れば３年前の令和２年に一度同窓会を開催する予定で案内状を発送し，出欠までお聞きしていたにもかかわらずコロナ禍のためにやむなく延期となりました。

今回も直前まで15名参加の予定でしたが，コロナ感染者等で３名欠席となり，最終的に男性６名，女性６名計12名が集いました。大阪，神戸，広島，山口，熊本，長崎からJR小倉ステーションホテルに集合しました。猛暑で，コロナも完全には収束しない中，久しぶりに皆さんと再会できてこみ上げるものがありました。

再会を喜びあってみんなで乾杯の後は，すぐに大学時代の話になり，薬学部のワンダーフォーゲル部に属していた方が多かったようで，あちこちの山に登ったとか，長崎大学⇒小浜温泉⇒雲仙までラリーに参加したとか大変盛り上がりました。口々に“若いときに行っててよかった”と若かりし頃の健脚ぶりを懐かしんでいました。長崎からの出席者からは，西九州新幹線（長崎～武雄温泉間）が開業して，陸の玄関口長崎駅周辺も縞麗に整備され，外資系のホテルも出来る予定とのお話でした。

各自の近況報告では，コロナのせいでしばらく会えなかったためか，積もる話が満載でした。お話に聞き入っていると，お食事の手が度々止まってしまうようでした。残念ながら，この間に大切な級友が２人お亡くなりになりました。在りし日のお姿を思い浮かべながらみんなで黙祷をしました。

コロナに感染した方からは，“感染後倦怠感がひどかった。お薬はカロナールと小青竜湯だけだった”とか，眠れなくて困るという方には，他の人から“ベンゾジアゼピン系はだめだよ”とか，抗凝固剤を服用している方からは，“ちょっとした切り傷で血液が止まらなかった，怪我には注意しましょう”等，お話の中にお薬の名前が飛び交っていました。

２日目（９月３日・日曜日）は，酷暑の中，小倉駅から歩いて15分くらいの所にある小倉城に向かいました。途中日本で初めて出来たというアーケード（魚町銀天街）を通り抜け，紫川に架かる木の橋・常磐橋を渡りました。この常磐橋は，九州の５街道（長崎街道，中津街道，唐津街道，秋月街道，門司往還）の起点になっていて，江戸時代参勤交代の折には，大名たちはこの近くの本陣に一泊して門司⇒下関へと行ったそうです。長崎街道ではオランダ商館長やシーボルト，日本地図を作った伊能忠敬，吉田松陰，坂本龍馬など多くの有名人や旅人がこの橋を渡りました。その当時はこの界隈はとても賑わっていたそうです。

小倉城の天守閣は，戦後復興された鉄筋コンクリート製で，小倉の町のシンボルです。大手門から小倉城に入ると，内部は細川～小笠原統治下の郷土資料館になっていました。中で「小倉城ものがたり」のビデオを見ました。関ヶ原の戦いで活躍した細川忠興が，城下町小倉を賑わいのある町につくりあげたとか，第二次長州征討のおりに小倉城は自焼したとか，小倉出身の草刈正夫さんのナレーションでわかりやすく説明していました。

１階は歴史ゾーンで，当時の小倉を模したジオラマが出迎えてくれました。

２階の体験ゾーンでは，キャラクター化された戦国武将や忍者達の顔ハメコーナーがあって，両面に絵が描かれており，その向かいには鏡が設置されているので，写真を撮ってくれる人がいなくても自撮りできます。男性陣が何人かトライしていて，ふと○○さんが江戸時代に紛れ込んだような錯覚を覚えました。

天守閣に登ると眼下に最近水質がとても良くなった紫川がゆったりと流れていました。それから広々とした勝山公園も見えました。現在勝山公園になっている所は，戦時中小倉陸軍造兵廠があったところで，ここでは戦車，機関銃，砲弾，化学兵器などを造っていました。敷地はとても広く，当時約４万人の人達が働いていたそうです。

昭和20年８月９日，ここは原爆投下の第二目標地でした。前日の八幡大空襲の余煙で霞んでいて，造兵廠をしっかり見つけることが出来ず，次の目的地長崎で原爆が投下され，あの大惨劇が起こりました。

小倉城の西ノ口門近くにある松本清張記念館も巡り，最後に小倉城庭園にも行きました。暑い中歩き疲れたので，江戸時代の雰囲気を感じながら，長椅子に腰掛け静かな落ち着いた一時を過ごしました。

今回この学年の理事の中村博さんより90才まで同窓会を続けようと心強い発言がありました。次回は長崎で開催です。私達の勉学（!?）の地，青春を過ごした地（!）に元気な姿で集いましょう。

開催にあたり，幹事の田中（岡田）さん，飯田（縄田）さんには大変お世話になりました。心より感謝いたします。

昭和47年卒業同窓会

森　　賢造（昭47）

2020年に予定していた下関での同窓会がコロナで延期になっていましたが，３年ぶりに開催することが出来ました。下関在住の金子君のお世話で場所も４年前にも予定していた海峡ビュー下関でした。関門海峡大橋を目の前に眺められる最高のロケーションの施設でした。10月21日５時半に集合予定でしたが，その時間には参加者がほとんどそろい，ロビーでは風呂上がりのビールで乾杯が始まっていました。やはりまだコロナ禍が影響しているのか参加人数はやや少ない22名でした。集合写真を撮ったあと３年遅れの宴会が始まりました。土地柄，季節柄フグをメインにした料理をコロナ禍の３年間を振り返りながら美味しくいただきました。宴会の後は隣のカンファレンスルームに会場を移して卒後51年目の再会の夜を過ごしました。

翌日は朝食後に各自で唐戸市場や赤間神社に向けて，タクシー，バス，徒歩とそれぞれの手段で出発して自由解散となりました。

次回は小寺君のお世話で福岡周辺に集まることになりました。

今回の参加者は，金子，大間，小寺，猪平，間瀬田，村岡，奥野，森，山田，末澤（以下旧姓で）岡本，簑田，安田，大山，池田，芳賀，宮垣，友永，中田，伊集院，上田，岸でした。

長崎大学薬学部　昭和47年卒同窓会　令和５年10月21日
於 海峡ビューしものせき

昭和48年卒業同期会

織田　公光（昭48）

10月28日，昭和48年卒の同期会を福岡市の福新楼において開催しました。

コロナ禍のため前回の広島市での開催から実に５年ぶりでした。参加数は20名でした。ほぼ常連の方で今回は欠席のため会えずに寂しい思いをした反面，卒業以来初めて参加した方もいて，井手君の軽妙な司会の下，それぞれ昔話や近況を交えて語らい楽しいひと時を過ごしました。

参加者：稲田（矢幡），堅田，菅（佐伯），辻村（片山），中川（山上），仲子（林），中山（山縣），野本（中西），長谷川（鍬塚），平田（許斐），水谷（渡辺），山口（力武），相川，井手，北野（林谷），高比良（横田），本松（寺田），森重，多田（山本），渡部（木原）。

話は尽きませんでしたが，次回長崎での再会を約束して散会しました。なお，世話役は当初本松，辻村，埋金（坂本），織田の４名でしたが，後者２名はそれぞれ所用と病気で欠席しました。

１年遅れの同窓会

小林　節子（昭49）

2022年12月11～12日，滋賀県びわ湖大津プリンスホテルにて同窓会を開催しました。

前回，次は京都でということになりましたが，当時京都は外国から国内から大勢の観光客が訪れホテル等の確保が難しく，秋の観光シーズンをずらし，京都駅から３駅目の大津にて準備を始めたところ新型コロナの感染拡大により１年延期して今回の開催となりました。

同窓生全員が古希を迎え，ご本人や親御さんをはじめご家族の方々の体調不良により急遽欠席の連絡もあり，最終的には15名での会となりました。

ホテル側の要望で２時間以内の宴会となり，少し慌ただしい感もありましたが３年ぶりの再会ということもあり参加者，欠席者（葉書）の近況報告などで盛り上がりました。

そのなかに小西（古賀）洋子さんのご主人様から８月にご逝去された由の連絡があり，また周南市の木宮（大越）淑子さんの訃報もあり，会のはじめにこれまでの物故者に黙禱をささげました。

短い時間でしたが会の後，１室に集まり次回は長崎でお会いしましょうと決まりました。

当日，翌日とそれぞれ小グループに分かれて京都観光やレンタカーで長浜，彦根，近江八幡，比叡山等を訪れグルメ（近江牛，お蕎麦，鰻等々）観光で滋賀県を大いに楽しまれたようです。

私を含む同窓生５人は瀬田ゴルフ北コースでゴルフを楽しみました。お天気にも恵まれ次回の長崎でもゴルフをということになりました。

拙い幹事で申し訳なく思っています。

今回お会い出来なかった皆様，是非とも長崎で集まりましょう。

長薬49年卒・45年入学同窓会　令和４年12月11日
於 びわ湖大津プリンスホテル

昭和50年卒 首都圏ＬＩＮＥお食事会のご紹介

梶村　　博（昭50）

昭和50年（1975年）卒のクラス会は２年ごとに開催されていて，昨年2022年は古希同窓会と銘打って湯布院に集いました。最近リタイヤした方が多く，薬剤師の定年はおおよそ70歳なのではと思われ，合同定年お祝い会の様相を呈していました。来年2024年は，卒後50年記念同窓会と銘打って長崎で開催されることになっています。

さて，本年2023年はクラス会のはざまの年で，無為に過ごすのも勿体ないので，首都圏在住の同窓生をさそってお食事会をすることにしました。もともと長薬同窓会関東支部総会で出会った面々が，東京見物を兼ねてあちこちとさるいていたのですが，71歳という新たな第一歩を踏み出すに当たって，その遊び仲間を首都圏全体に拡大するためにＬＩＮＥグループを作りました。遊び足らない・しゃべり足らない同窓生がさそいあってお食事会を開こうというのがＬＩＮＥグループの趣旨です。

趣旨に賛同した７名のうち６名が，３月31日の金曜日のお昼に青梅線拝島駅に集合し，桜満開の多摩川べりの散策を経て，イタリアレストラン“福生のビール小屋”に向かいました。多摩自慢という地酒を醸造している酒蔵の庭にあるクラフトビールのビアレストランで，美味しくて楽しいおしゃべりのひとときを過ごしました。その間，飲み，食べ，喋りっぱなしで，周りのお客さんにはさぞうるさかったのではと思われます。何しろ卒後50年，医薬分業の先頭に立って道を切り拓き，働き詰めに働いてきた方々ばかりなので，病気自慢も含め，話題豊富です。今後の参加を予定している方々をたじろがせることになるかもしれませんが，なんと６名でピッチャー

４杯とワインその他というのがこの日の実績でした。

このお食事会は年に数回開催される勢いになっていて，２回目は７月21日金曜日のお昼，中央線西国分寺駅付近のビアレストランで開催したのですが，一人入れ替わってこの時も６名の参加でした。現在の首都圏LINEお食事会のメンバーは男性３名，女性４名の合計７名で，人生をさらに楽しもうとしている人生の達人ぞろいです。

小井田雅夫先生を偲んで

木原　哲郎（昭53）

小井田先生

新型コロナウイルス感染の国内蔓延も３年過ぎて漸く収束に至り，巷もかつての活気が戻ってきた様ですが，皆様に残念なお知らせをしなくてはなりません。かつて旧薬物学教室（現医歯薬総合研究科 創薬薬理学分野）に当時，助教授として教鞭をとられていた小井田雅夫先生（特）が痛恨ながら，2022年12月８日，前立腺がんのため86歳でお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り致します。本来ですとこの追悼記は当時の研究室で先生と師弟関係でした，私の同期の中牟田弘道先生（後に広島国際大学薬学部長）に綴っていただくのが相応しいと私は思いましたが，中牟田先生も残念ながら2011年に他界されましたので，同教室に在籍していた私が僅かばかりの記憶を辿って小井田先生の思い出を偲びたいと思います。

思えば遡ること47年，1976年９月，薬物学の講義に新しい助教授が担当されるとのことで，当時３年生だった私達学生はどんな先生かと大きな関心を寄せていたところ，講義室後方より，のっしのっしと大柄の褐色肌でやや角刈り，黒縁眼鏡の，まさにAfrican-Americanスタイルの風貌で登壇され，私は一瞬息をのみました（おおっ！）。イリノイ医科大学の生化学部門の特任研究員だった小井田先生の長大復帰初登壇の瞬間でした。米国時代の研究内容の概略をつやのある美声で講演されていましたが，次第に講義内容が研究領域から外れてきて，major leagueのこと，golfのこと，お酒のこと等々，自信たっぷりと本来の講義内容に増して（？）得々とお話されたことがまだ脳裏をかすめています。

当時，薬物学教室での研究は金戸洋教授（特）（故人）の薬物依存，耐性を中心とした丸ごとの動物を用いたin vivo研究が主でしたが，小井田先生は米国から導入した生化学的薬理学の手法で動物（特に脳）から超遠心法で細胞下画分（シナプトソーム等）を取り出して放射性リガンドを用いたreceptor binding assayや，生体内ペプチド等を分離する際に汎用されているaffinity labeling法などを学会でもかなり早期に教室に導入され，内因性のオピオイドペプチドを単離する試みなど，先生と中牟田先生が日夜研究に勤しんでいた光景が今でも眼に浮かびます。

研究以外では長薬野球部のメンバーとして当時，持ち味の底力のパワーで投打とも大活躍されました。薬学部玄関前で投球練習の披露をされたことがありますが相当な剛速球で，軟式球でしたので「投げたらホップするんや」と豪語されてましたが丸太棒の腕から放たれる球は確かにその通り，凄かったです。数々の学内コンパ，ソフトボール大会，教室旅行（五島三井楽での海水浴）などの楽しい思い出ばかりですが，ともかくお話内容が「飲む」,「打つ」,「○う」などの豪胆そのものの雰囲気でいつも皆を圧倒したものでした。

先生はその後，郷里の大阪府に摂南大学教授として中牟田先生とともに異動され，定年退官までカルシトニンを中心としたペプチド関連の生化学薬理研究で多くの論文を発出されました。後に秀逸な研究業績や長きの教育実績の集大成が認められたのでしょう，遂に栄えある「瑞宝小綬章」の叙勲を2016年に授けられました。

しかし上述しましたが愛弟子，中牟田先生を無念ながら病で失ってから，先生が失望の日々を送られていたことを窺い，私達同期生有志で先生を元気付ける会を大阪で開きました。少しお元気になられたような気もしましたが，久々に穏やかになられた先生の笑顔を拝見するのが私にとってこれが最後でした。持病と戦いながらも夫君を長く琴瑟相和しつつ支えてきた奥様の失意は如何ともし難く，「主人はまだ入院中で治療の最中と思ってます」とも述べられ，すぐには先生の死を受け止めることが困難のご様子でした。先生の思いを抱きつつも，また少しずつでもお元気で再起を期していただきたいと願っております。

学生時代に先生方他，仲間と過ごした青春の日々は本当に長く忘れないものです。ここに小井田先生から私達門下にご指導いただいた多くの知識や技量そして心意気に感謝し，大切に胸に刻むとともに，私も五木寛之さんが人生語録でよく述べられている「白秋期」をこれからじっくりかみしめながら過ごしていきたいと思った次第です。小井田先生，どうぞ安らかに。　　合掌

薬学部教室対抗ソフトボール大会　長大グランドにて1977.6
（小井田先生ピッチャー，この年薬物学教室優勝）

薬物学教室　夏季旅行
五島三井楽町高浜海水浴場にて1977.7

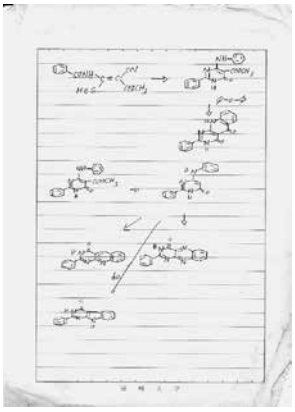
薬物学教室　卒業旅行
雲仙岳にて1978.3

小井田先生を囲む会
大阪市内飲食店にて2011.12

憧れの構造式

高良　真也（昭57）

先日，家の片付けをしていたらこんな物が出てきました。



1980年代後半，Apple社のパーソナルコンピュータMacintosh（Mac）の登場は医学薬学の世界に少なからず衝撃を与えました。特に分子構造式作成ソフトChemDrawはそれまでのスライド作りにおけるテンプレート（定規）を使ったロットリングという手作業から研究者を解放し，均整のとれた正六角形のベンゼン環や正五角形などが大きさも線の太さも自由自在に描けるという画期的なもので，Macの普及を強力に後押ししました。さらにプレゼンテーションソフトウェアPowerPointの登場によりスライドフィルム作りからも解放されるのはもう少し後のことになります。こうして，誰でも教科書のような構造式を簡単に描くことができるようになり，どの学会でもそれがスタンダードになっていきました。

それでもその頃から，私が一番好きだった，憧れた構造式は，富永義則先生がフリーハンドで描く構造式でした。（左図）決してベンゼン環が正六角形なわけでも，正しい結合角で描かれたわけでもないのですが，美しいのです。勢い・情熱を感じるのです。

10年以上前になりますが，先生の定年退官の記念公演に参加しました。残念ながら，定番のPowerPointによるスライドのみで構成されていて，「憧れの構造式」を見ることはできませんでした。

今年４月先生は鬼籍に入られ，フリーハンドで構造式を描く先生の姿をみることは叶わなくなってしまいました。

ちなみに右図のフリーハンドの構造式は，小林五郎先生によるもので，亡くなられる１年くらい前のものだと思います。

津村浩行君を偲んで

原　　正朝（昭60）

令和５年の１月に，津村君の奥様から令和４年11月25日に逝去されたと訃報のはがきが届きました。４年前にくも膜下出血で倒れて闘病中との連絡を受けてはいましたが，突然の悲報にただただ，驚くとともに，悲しさと寂しさを禁じえませんでした。

津村とは昭和56年入学の同級生です。津村は２年浪人しており，２歳年上でした。誕生日が津村は１月17日私は１月25日と一週間違いで親近感を感じていました。昭和町の津村の部屋には，当時のアイドル伊藤つかさの大きなポスターが貼ってあり，松田聖子のレコードを借りたりしたものでした。八幡の津村の実家から差し入れが届くと，一緒にごちそうになったりとお世話になりました。２歳年上の分，面倒見もよく，みんなからは「つーさん」と呼ばれ，軟式テニス部の先輩後輩からも慕われていました。時々昼まで寝て，大学に出てこないこともあり，卒業は１年遅れて山之内製薬に就職し東京で勤務していました。山之内製薬を退職し福岡に戻って，平成５年に私が勤務する総合メディカルに入社しました。そうごう薬局行橋店に勤務している時に，鹿児島のそうごう薬局に勤務する薬剤師の知子さんと出会い社内結婚をしました。遠距離恋愛でもあり，私もたびたび相談の電話を受けたものです。結婚後は，私が先に夫婦で赴任していた長崎県のそうごう薬局上五島店に，夫婦で勤務してくれました。上五島店では，ＯＴＣ薬の販売や在宅医療に取り組んでいました。まだ，薬局からの在宅訪問が普及しておらず，どのような事をすれば，患者さんのお役に立てるだろうかと，一緒に議論して取り組んだことが思い出されます。私と津村の夫婦４人でハウステンボスへ行ったこともありました。その後，小長井店の薬局長を経て，知子さんの実家に近い鹿児島で勤務していました。私の勤務先も，広島，東京，弘前，名古屋と変わり，なかなか会うこともできない中での突然の悲報でした。浪人，留年と少しゆっくり歩んでいたのに，なぜそんなに急いで逝ったのか，酒を酌み交わして昔話をすることもできなくなってしまいました。令和５年のゴールデンウイークに，鹿児島の自宅を訪ね津村に会ってきました。知子さんからは，津村に会いたくなったらいつでも来てくださいと言われています。私の佐賀の実家から，鹿児島まで新幹線で２時間半，ずいぶんと近くなったものです。コロナ禍の中，家族葬でお見送りをしたとのこと，最後のお別れもできず残念でしたが，私の中には津村はずっと生きてます。また一緒に飲もう。謹んでご冥福をお祈りします。

富永義則先生ご逝去にあたり

川邉　雅則（昭62）

富永先生

富永先生との出会いは，大学１年の２月くらいに，岡先輩から富永先生に付いて手伝うように指示されたのがきっかけでした。それから卒業まで３年間お世話になりました。富永先生は，実験が上手く，ケテンジチオアセタール類の汎用性にこだわっていた，という印象が残っています。あと，独り言が多く，自分で言って，自分で納得する，って印象が残っています。毎朝７時頃には大学に出てきていました。普段は実験とテニスですかね，卓球，野球，も上手かったですね。大力で昼を食べるときは，食べるのが速くよく置いて行かれました。卒後2007年に生まれて初めての東京訪問の時に，富永先生に引率をお願いしたら，東大の図書館に用事があるので，良いですよ，っと，受けて頂きました。この時は，靖国神社と浅草寺と東京タワーに連れて行って頂きました。学生には優しい先生でした。

今年の４月15日に白川さんから，訃報の連絡を受けた時は，ショックで，悲しかったですね。

富永義則先生は，御浄土から，皆さんを見守っていることと思います。南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏。

昭和61年度入学生卒後33年同窓会を開催しました

山本　　稔（平２）

2020年初頭から全世界で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症も流行から４年目を迎え，ようやく国内も様々な制限が解除され，通常の日常を取り戻し始めました。私たち昭和61年度入学生及び平成２年卒は，卒後33年を記念しての同窓会を2023年９月17日にヒルトン長崎にて開催しました。我が学年はこれまで５年毎に同窓会を行っておりましたが，卒後30年がコロナ禍となり，３年の延期を余儀なくされ，８年ぶりの開催となりました。その鬱憤が皆にあったのか，一次会の参加者は41名と過去最高を記録し，実に学年の半数を超える参加者で大いに盛り上がりました。

参加者は下記の通りです。（敬称略，旧姓含む）

穐山，荒木，宇賀，浦川，太田，岡田（由），岡本，小川，川口，河原，城戸，道祖尾，中尾，中村，藤原，増田，松下，峰，森，山本（和），井手，上野，大澤，岡田（知），小山，香月，狩野，神浦，里，柴田，田浦，富田，冨永，土斐崎，濵田，日迫，堀，森川，山内，山田，山本（稔）

会の経過を報告しますと，まずは遠路はるばるアメリカから駆けつけてくれました井手指月さんの挨拶，続いて東京から参加の森川君の乾杯の発声で開会となりました。久しぶりの参加者としては関東在住の小川君，太田さんがご夫妻ともの参加で元気な姿を見せてくれ，本当に嬉しく思いました。卒後30年以上も経過すると，容姿も学生時代の頃と大きく変わった人もいて（良い意味で），顔を見ても名前が浮かんでこないといった人もあったようでしたが，多くは学生時代と変わらぬ懐かしい面々でした。特に私の目に留まったのは，学生時代は不摂生の塊だったような狩野くんが見違えるように健康的で爽やかな容姿になっていたのが，印象的でした。また，我が学年のエンターテイナーの山内君はまるで妊婦のようなお腹で登場し，注目を浴びていましたが，その挙動は学生時代と全く変わっておらず，相変わらず「山さん」は健在であった事をご報告いたします。

歓談の途中では，森川君から我々の入学時の新入生歓迎茶話会の時のものと思われる名簿を入手したとの披露があり，当時を懐かしむと共に，それに記載されていた○△×の意味について議論が交わされ，大いに盛り上がりました。

２次会は駅前のパブを貸し切ることができ，盛り上げ役の鍵本君も合流し，35名もの参加でさらに盛り上がりました。

３次会は近くの居酒屋に移動し，十数名で閉店の午前２時まで盛り上がりました。終わってみると開会から９時間近くもの間，時が経つのを忘れて歓談していたようです。８年ぶりの再会だったこともあり，何時間話しても話は尽きず，大変名残惜しかったのですが，次回の再会を約束して，お開きとなりました。コロナ禍による延期もあったため，次回の同窓会は２年後の卒後35年を記念して行う事が満場一致で決まりました。

今回の同窓会開催に当たっては，LINEでの開催案内，参加者の集約，会場予約，当日の集合写真の手配，司会進行等，一手に行ってくれた富田君のおかげで盛会裡に終えることができ，心よりお礼申し上げます。また，関東関係の取り纏め等，ご協力いただいた森川君，濵田さんご夫妻，集合時間のかなり前からきて受付，集金等にご協力いただいた，道祖尾さん，中尾さん，堀さん，本当にありがとうございました。

今回参加したかったのだけど，仕事や家庭の都合でどうしても参加できなかった方もいらっしゃいましたが，２年後の卒後35年には是非ご出席いただき，さらに多数の参加で盛り上がることができればと思っております。では，皆さん，次回開催での再会を楽しみにしております。

長崎大学薬学部　昭和61年度入学生同窓会　令和５年９月17日　ヒルトン長崎

久しぶりの長崎へ　～平成五年卒同窓会報告～

逆瀬川（川留）康代（平５）

令和５年11月４日平成五年卒業生同窓会が長崎にて開催されました。卒業以来，毎年恒例となっていた同窓会でしたが，コロナ禍でしばらく休止になっていたため四年振りの開催となりました。

例年，温泉旅館等に宿泊して行う事が多かったのですが，コロナ禍はまだ完全に終息していないため今回は長崎での食事会となりました。

幹事は四年前と同じ由佳ちゃん，夏子ちゃん，雅代ちゃんです。お世話になりました。ありがとうございました。

鹿児島に住んでいる私にとっては４年振りの長崎。長崎駅に降りたのは６年振りのこと。鹿児島から長崎まで，学生の頃は移動に特急を乗り継いで６時間くらいかかっていましたが，昨年西九州新幹線が開通したおかげで，２時間40分ほどで長崎に到着できました。長崎駅は１週間後のリニューアルオープンに向けて工事中でしたが，かなりおしゃれに都会的になっていてびっくりしました。

宿泊するホテルにチェックインして食事会の会場へ。長崎駅近くの居酒屋さん。会場に着いたらすでに懐かしい顔がたくさん集まっていました。「久しぶりー」「変わらんねー」「元気だったー？」 普段は鹿児島弁の私も長薬の同窓生に会うと変な標準語になってしまいます。コロナ禍で色々な事が制限されていたことなんて飛んでしまい，一瞬で学生の頃にタイムスリップしたように感じました。

開始時間が来たところで幹事を代表して夏子ちゃんの乾杯の挨拶で始まりました。今回の参加者は19名。大阪，兵庫，広島，九州各地からの参加です。学生の頃の思い出話や会えなかった間の色々なことなど話しは尽きません。当日は日本シリーズの真っ只中で阪神を応援しながら楽しんでる人もいました。

例年，輪の中心にいた森本くんがいなかったのはやはり寂しい気持ちでした。みんな口には出さずとも同じ気持ちだったと思います。

コロナ禍での自粛ムードが頭にあり，一次会でお開きにならないか心配していましたが，三次会まであり盛り上がりました。皆さん，翌日は体調大丈夫でしたか？

気づけば今年は卒業30周年だったようです。佐野ちゃんは皆勤賞，おめでとう。前回まで皆勤賞だった小嶋くんは今回参加できず残念でした。コロナ禍でなければもう少し盛大に行われたかもしれないないけれど，久しぶりに長崎の街で呑めて楽しい時間でした。

来年まではまた長崎で開催の予定です。今年参加された方はもちろん，都合がつかず今年参加できなかった方も，長く参加できていない方も是非時間を作って参加してみてください。卒業以来，長崎から遠ざかってる方は同窓会ついでに観光も兼ねて長崎を訪れてみてはいかがでしょうか？懐かしいと感じつつ変貌に驚き感動すると思います。

卒業しても変わらず楽しい時間を過ごすことができる同級生はありがたい存在です。来年も今年に引き続き幹事をしてくださるお三方に感謝です。よろしくお願いします。

平成五年卒のグループLINEがあります。是非皆様ご参加ください。同窓会に参加できなかったとしても同窓会の写真等見ることができます。懐かしくてきっと同窓会に参加したくなると思います。

参加者（敬称略，女性全て旧姓）
大杉，岡田，賀川，木村，野田，藤井，
前田，松元，山﨑，
佐野，豊嶋，中村，野上，松原，松村，
柳原，山口幸，吉田，川留

西田 孝洋先生還暦祝賀会

宮元　敬天（平20）

2023年９月９日（土），ホテルニュー長崎丹頂の間で，西田教授還暦祝賀会を開催しました。この数年，COVID-19の影響により，大勢での会食が制限されていましたが，その影響も薄れ，さらに西田教授の還暦という特別な年に当たり，久しぶりの若手同門会をかねての開催となりました。

薬剤学研究室の若手同門会会長である山村賢三様（院平７）に開会のご挨拶をいただいた後に，川上茂様（平７）による乾杯のご発声で会が始まりました。卒業生・在校生あわせて55名の方に出席いただき西田先生の還暦を祝福するとともに，久しぶりに顔を合わせ，懐かしい思い出話に花を咲かせました。

懇親会の途中では西田先生がご着任されてからの研究室での思い出の写真をスライドショーで映写し，参加された皆様も昔の写真を見ながら思い出話をされておりました。また，残念ながら参加できなかった方々からお祝いのメッセージや動画メッセージが多く寄せられ，これも懇親会の一環として披露しました。

西田教授の還暦祝いということもあり，赤いちゃんちゃんこを能勢誠一さん（院平12），嶺豊春さん（平10），目良国寛さん（平10）の３名に着せていただきました。また，卒業生の前村唯奈さん（令４）が描いた西田先生の似顔絵が彫られたタンブラーを記念品として贈呈させていただきました。在校生達が準備した還暦祝い品を藤井勇多さん（博士前期２年）から贈呈し，花束を満留菜央さん（博士後期１年）から贈呈いたしました。

最後に目良国寛さんより中締めのご挨拶を頂き，目良さんが研究室にご在籍だったころの思い出話を交えた興味深いお話しを伺い，盛会のうちにお開きとなりました。最後に全員で記念撮影をしたあとも，思い出や近況の話題が尽きる様子はありませんでした。

お忙しい中，遠方より多くの皆様にご参加頂いたおかげで大変活気溢れる還暦祝賀会となりました。ご参加の皆様やお祝いのメッセージを頂戴した皆様にこの場を借りて御礼申し上げます。

近況報告　～父親になりました～

林田　颯志（平28）

長崎みなとメディカルセンターでの勤務が８年目となり，未だ役職はないものの，若手ではなくなってきました。現在は病棟業務に従事しておりますが深刻な人手不足に陥っており，一人当たり２つ以上の病棟を毎日担当しています。調剤室の人数も少ないため，病棟係は調剤業務も兼任しており，実質病棟にいる時間は４時間を超えることはないのではないかなと思います。連携充実加算対象患者の外来指導やＴＤＭ，糖尿病教室や各種会議など様々な仕事が同時に押し寄せることが多く，混乱することも正直あります。様々な仕事ができるようになってきたのだとポジティブに考えておりますが，常に業務改善していくことが大事であると感じる日々です。

そんな中，今年はリクルートの仕事をさせていただくことになり，有望な若手に入職してもらえるように魅力ある職場にしていく必要があると感じています。学生が集まるリクルート会場に行くと，給与面だけでなく，「専門薬剤師の資格取得の支援はありますか？」などキャリアアップを目指す，やる気のある学生さんが多いと感じます。やはり対人業務を充実させないと薬剤師の職能は十分に発揮できないので，今年は多額の予算を用いて大型の調剤機器を次々と導入する予定です。対人業務を拡大していく見込みですし，奨学金助成や入職祝い金など，我々の入職時にはなかった就職支援がありますので，学生の皆さんはぜひ長崎みなとメディカルセンターを検討してくださいね。私たち先輩も優しい（はず）ですし，雰囲気は悪くない職場じゃないかなと思っています。

私事ですが家庭では７月に女の子が産まれました。コロナの規制も少し緩和されていたので，立ち会いもできました。忙しい中ですが，休みもたくさんいただいて職場には迷惑をかけましたが，大変貴重な時間を過ごすことができたので，今後の仕事にもプラスにしていきたいと思っています。

仕事も家庭も大変。。いや，色々な事を任せてもらっておりますが，人間ですのでどうしてもやる気が出ない時はあります。そんな時は我が子を見て，父として恥ずかしくないようにやっていきたいです。

白衣贈呈式

伊藤　　慎（学１），中野　朝陽（学１）

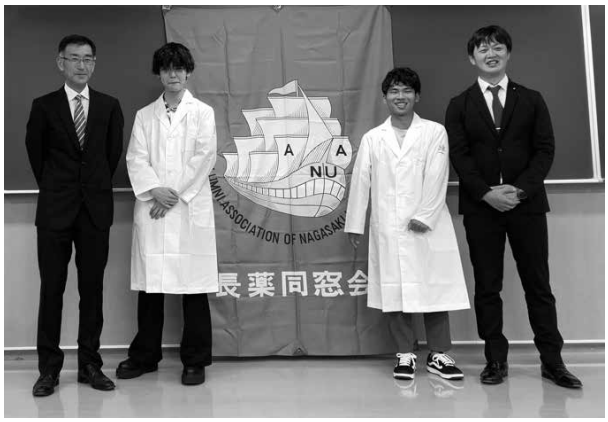
令和５年９月28日，薬学部多目的ホールにて白衣贈呈式が執り行われました。

長薬同窓会のご厚意により，白衣を贈呈していただき，１年生を代表して深く感謝申し上げます。

今年は昨年度よりもコロナウイルスの影響が減少し，同級生とマスクなしに交流することができるようになりました。そのような状況の中で，経験したことのないほどに長い夏休みの後に白衣贈呈式が執り行われ，長崎大学薬学部の長い歴史を背負っている伝統的な白衣をいただきました。

今後，勉強の内容は今まで以上に難しくなっていくと思いますが，より一層気を引き締めて先生方，長薬同窓会の方々の期待に応えられるよう，精一杯努力し，授業などに取り組んでいきたいと思います。

頂いた白衣は来年度後期の基礎実習やその後の研究活動，病院実習などで使用させていただく予定です。



薬学祭

中村　大海（学３）

2023年10月21日，22日両日ともに快晴に恵まれ，今年度の薬学祭が開催されました。

昨年の新型コロナウイルスの影響などにより，薬学サークルによる出店は来年度から行うという形になりましたが，長薬同窓会様からの援助により，バレーボールや賞状等を購入させていただき，お陰様で例年以上の盛り上がりを見せた薬学祭となりました。

初めての薬学祭ということで，１年生は予選通過できませんでしたが，来年に期待したくなる勢いを感じました。去年１年生であった２年生は成績表に２つも名をあげるほどに成長し来年の研究室配属にも期待が集まります。３年生は研究室配属直後ながら各研究室で主力として活躍している様子が多くみられ，これからの薬学祭も楽しみになりました。４，５年生は各種目でまとめ役，主戦力として活躍がみられました。６年生や博士前期課程２年の方々の多くは今年で最後の薬学祭ということもあり，特別気合が入った先輩もいらっしゃいました。今回の薬学祭を通して新たに先輩方や後輩と関わることができ，研究室内の仲もよりいっそう深まったとともに，改めてスポーツの良さや素晴らしさを感じることができたと思います。

長薬同窓会の皆様本当にありがとうございました。

フットサル	
優　勝	坂本連合チーム
準優勝	細胞制御学
バレーボール	
優　勝	薬物治療学
準優勝	医薬品情報学
３　位	薬化学
ソフトボール	
優　勝	薬化学
準優勝	分析・衛生合同チーム
３　位	２年生チーム
バスケットボール	
優　勝	医薬品情報学
準優勝	２年生チーム
３位タイ	薬物治療学
３位タイ	薬化学

フットサル

バレーボール

ソフトボール

バスケットボール

薬物治療学研究室

医薬品情報学研究

薬化学研究室

２年生チーム

令和５年度グビロが丘下の薬専防空壕跡地の慰霊碑周辺の清掃

宮元　敬天（平20）

毎年８月の第一日曜日に開催しているグビロが丘下薬専防空壕跡地の清掃を行いました。

コロナ禍から規模を縮小して本部役員を中心に実施しており，今年は本部役員12名と事務局スタッフ，子供達の参加で行いました。

年々暑さが厳しくなっておりますが，今年も気温が高い中で汗をかきながら防空壕周辺の落ち葉などの掃除をおこないました。

今年は広島原爆の日と同じ日に清掃活動となりました。

慰霊碑の説明文を読んだだけでは当時の状況をしっかりと理解できるわけではないので，当時の状況をご存じの諸先輩方からお話しを伺う機会をいただき，記録に残すとともに今後に伝えていく必要があると感じた１日でした。

来年は以前のように学生を含めて多くの方にご参加いただいて清掃活動を行うこともできるかもしれません。

ご興味がある方は是非ご参加いただければ幸いです。

長崎大学薬学部昭和町校舎跡記念碑清掃

岸川　直哉（平10）

2023年８月21日（月）に長崎大学教育学部附属小学校敷地内の長崎大学薬学部昭和町校舎跡記念碑の清掃を行いました。

当日は雲が出ておりましたが日差しは強く，例年通り暑い中での清掃となりました。

記念碑のまわりは既に綺麗に整理されていたため，清掃作業は比較的速やかに行うことができました。

今回の記念碑の清掃は岸川（平10）と松尾（平15）で担当致しました。

小野島清掃

山口　正広（昭56）

秋晴れの2023年11月３日（金／文化の日），長薬同窓会の事業の一つである旧小野島校舎跡記念碑周辺の清掃活動を行いました。

この記念碑は，長薬同窓会小野島会（自昭和22年至昭和26年卒業生）の皆様により，1988年（昭和63年）６月に建立されたものです。

長崎大学薬学部百年史によりますと，1947年（昭和22年）１月20日，佐賀市多布施町の仮校舎から諫早市小野島村の元長崎地方航空機乗員養成所跡に薬学専門部が移転し，小野島校舎として約４年間使用されたとのことです。当時は，設備や資材はなく，食糧事情も極度に逼迫している中，200名近い生徒があらゆる不便を忍んで苦学されたようです。また，2008年にノーベル化学賞を受賞されました下村脩先生も小野島校舎で学生時代を過ごされています。

今年も，長崎県央支部の有志の先生方にご参加いただき，記念碑周辺の清掃を実施しました。当日は，朝８時30分頃に現地に集合，周辺の草取りや落ち葉拾いなどを行い，記念碑を拭き上げ，30分ほどで清掃活動は終了しました。作業終了後は，記念撮影を行い，しばらく懇談をした後，解散しました。

今年の参加者は，昨年と同様，西村昇支部長（昭50），西村律子先生（昭51），石居敏文先生（昭56），山口綾子先生（昭60）と昨年から参加いただいている狩峯寧先生（平31），そして私の６名です。お疲れ様でした。

来年の清掃活動につきましても，長崎県央支部の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

研修報告

上薗　令奈（学５）

今回私は，海外での薬剤師の役割や仕事内容，薬学教育について学びたいと思い，この研修に参加させていただきました。研修を通して学んだことについて，二つの側面に分けて述べさせていただきます。

まず，“薬学教育”に関してです。アメリカの薬学部は大学院のような位置づけであり，高校卒業後まずcollegeで必要単位を取得することで薬学部を受験することが可能になります。入学試験には，collegeでの優秀な成績と面接ではかられる高い人間性が必要とされます。ニューメキシコ大学の薬学部は４年制で，１～３年生で講義を受け，４年生では丸１年を臨床実習にあてています。その中で特に驚いたのはInfection Diseasesの授業で，細菌と抗生物質の効果的な組み合わせを全て覚えるそうです。日本ではそこまで詳細に暗記する授業はないため，知識の差がかなり大きいように感じました。また，３年生では知識を応用する授業があり，複数の合併症のある患者など，複雑な症例に対してどう治療するかを授業で学びます。こうした薬学教育を知り感じたことは，アメリカでは卒業後すぐに臨床で活躍できるような人材を育成しているということです。日本では実習で薬剤師業務を学ぶという印象が強いですが，アメリカでは実習に行くまでに複雑な疾患の治療やコミュニケーションについて学んでおり，さらに１年間という長い実習期間を経ることで卒業時にはすでに薬剤師として活躍できる能力を身につけているようでした。また，実際の講義を見学させていただきましたが，学生が自ら進んで発言したり学生同士で話し合ったりしており，日本では考えられない学生の学ぶ姿勢を拝見し刺激を受けました。

次に“臨床で働く薬剤師の役割”に関してです。現地では３つの薬局とペインセンターを訪問させていただきました。注射薬などを製造している薬局や，予防接種やテストを中心に行っている薬局，年に一度患者と処方薬について見直す時間を設けている薬局など，日本とは異なる薬剤師の仕事内容を知りました。ペインセンターではPharmacist Clinicianの仕事を見学させていただきました。この職種は普通の薬剤師と異なり，疾患がすでに診断されている患者に対して薬の処方・変更や用量の調節などを，医師を通さず行うことのできる専門職です。患者との対話では，疾患について模型や資料を用いて詳しく説明を行い，薬だけでなく生活上のアドバイスも行いながら治療のゴールを相談しており，日本の薬剤師とは全く異なる印象にとても驚きました。さらに，患者を臨床心理士など他の職種に紹介することも可能であり，アメリカでの薬剤師の役割が薬以外にも多岐にわたることを実感しました。

他にも様々な施設を見学させていただき，アメリカの薬学教育が臨床との結びつきを重視していることや，薬剤師が処方や予防接種など多彩な役割を果たしていることを学びました。一方，一包化やお薬手帳などはアメリカでは一般的でないようで，世界に誇れる日本の薬剤師業務についても同時に知ることができました。アメリカの優れた点を全て日本に適用することは難しいですが，日本の良い点を伸ばしながら少しずつ取り入れていくことが必要であると感じました。

この研修で多くのことを学び大変有意義な時間を過ごすことができました。このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

研修の様子

現地での食事を堪能

短期プログラム研修に参加して

鳥越　彩伽（学５）

今回アメリカのニューメキシコ州で，The University of New Mexico（UNM）College of Pharmacyでの講義，病院や地域薬局の見学を通して，ニューメキシコ州での薬剤師教育や薬剤師が果たしている役割について学び，日本の薬剤師には何が出来るか，強みとして挙げられることは何か，また自分自身が将来どんな薬剤師になりたいか，ということについて考えるためにUNM短期留学プログラムに参加させていただきました。

UNMの薬学教育について講義を受けましたが，日本よりも臨床の授業が非常に充実している印象を受けました。UNMは大学院大学で，１年生から専門的な分野を学んでいき，学年が上がると，様々な疾患をもつ患者の症例を扱い始め，４年になると１年間実習に行くことが出来ます。日本では１つの疾患を持った単純な症例を扱う事が多く，何十種類も薬を服用している患者さんについて重複の有無や相互作用の有無，処方されている薬がベストであるかなどを考える授業はあまりないように感じたので，臨床現場に出た時にすぐに対応が出来るように，複雑な症例に関する授業時間が増えるといいなと思いました。

次に，ニューメキシコ州での薬剤師の役割についても学びましたが，ニューメキシコ州の薬剤師はワクチン接種や緊急避妊薬・ナロキソンの処方，TBテスト，禁煙治療，HIVの曝露後予防なども行えるという事で，日本よりも幅広い業務を行えるという事を知りました。このように薬剤師の職域が広がった背景には，医師不足も関係していると思いますが，薬剤師が実績を上げて信頼を勝ち取ったという事が挙げられると思います。法律や規制によって日本では出来ない事もあるかもしれませんが，まずは“薬剤師はこんなことができる”ということをもっと色々な人に知ってもらい，みんなで薬剤師として他に出来る事はあるだろうかと常に考え続ける事はとても大事な事だと思いました。私自身，常に進化し続け，責任をもって仕事をし，信頼のある薬剤師を目指したいと思いました。

また，地域薬局（Menaul Compounding Pharmacy，Walgreens，Duran Central Pharmacy）の見学もさせて頂きました。どの薬局にも特色があり，素晴らしい薬局ばかりでしたが，特に最後に伺ったDuran Central Pharmacyは個人経営の薬局であり，チェーン店の薬局と違って，レストランやお土産売り場を併設し，独自性を大事にする薬局でした。小さい薬局だからこそ一人一人の患者さんと向き合う時間を長くしようと努力されており，年に１回患者さんと一緒に処方内容を見直したり，勉強会を積極的に行ったり，最新の機械を導入するなど，薬局として生き残っていくために様々な工夫が見られ，とても勉強になりました。

今回のプロジェクトでは本当にたくさんの事を学ばせていただきました。これから薬学生として成長していく糧となり，どのような薬剤師になりたいかという事について考える大きなきっかけとなりました。UNM研修に関わり，支援していただいたすべての関係者の皆様にこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

河野前学長らとの集合写真

UNMにてA-Fib screeningのデモを受ける様子

研究室だより

細胞制御学研究室

博士前期課程２年　　井上　昂海，是枝　杏佳，杉山　拓朗

当研究室は武田弘資教授，谷村進准教授，竹生田淳助教の３名の教員に率いられ，加えて博士後期課程１名，博士前期課程４名，薬学科５名，薬科学科４名の学生が在籍しております。また今秋には新たに３年生が３名配属され，現在は総勢20名が在籍しております。本研究室では大きく３つのテーマについて，それぞれグループに分かれて取り組んでおります。

１つ目は「ストレス応答を制御する細胞内シグナル伝達機構の解明」です。細胞は常に様々なストレスにさらされており，そのようなストレスに対して適切に応答を誘導することは細胞の生存にとって非常に重要です。そこで当研究室ではミトコンドリアのストレス感知・応答機構，炎症応答におけるミトコンドリアの機能，マクロファージ系細胞の炎症性細胞死に着目して研究を行っています。

２つ目は，「海洋微生物抽出物ライブラリーの構築と創薬への応用」です。このテーマでは，長崎県の豊富な海洋資源に着目し，県内各地より収集した海洋微生物の抽出物を創薬スクリーニングに利用できるようにライブラリー化を進めています。また，ライブラリーの拡充を進めると同時に，活性成分産生微生物の大量培養，抽出物の大量調製，活性成分の精製を進めながら，学内外のたくさんの研究者の方々にライブラリーを提供し，アカデミア創薬の基盤整備と長崎大学発の創薬を目指しています。今年９月には，五島に足を運び，北里大学や学内の他の研究室の先生方と協力しながら多くのサンプルを採集しました。このサンプルは，順次培養を行っており，創薬へ応用することができる有用な抽出物が含まれていることを期待しております。

３つ目は「サメ由来ナノボディの開発」です。ラクダ科の動物には重鎖のみからなる抗体があり，単量体で作用するその可変領域を利用したナノボディが開発されております。当研究室ではサメにも重鎖抗体があることに着目し，水産学部と協力することでサメ由来ナノボディの開発を目指しております。

今年は，前期の慰労会等コロナ禍で制限されていたイベントが少しずつ復活し，ラボに活気が戻って参りました。日本生化学九州支部例会の開催も本薬学部で開催され，研究を進めている専門分野を超えた学びがありました。また，今年３月に開催された長崎大学薬学部薬科学科分野横断型卒業研究ポスター発表会では，博士前期課程１年の甲斐君が優秀ポスター賞を受賞しました。コロナ禍の制限が徐々に解除される中，当研究室のメンバー一同，専門分野における新たな発見に辿り着くよう一層精進していきます。

創薬薬理学研究室

博士前期課程１年　　古川　雅也，松濱　　碧

創薬薬理学研究室は，金子雅幸教授，塚原完准教授，岡元拓海特別研究員のご指導のもと，博士前期課程２年３名，博士前期課程１年２名，学部６年生１名，学部５年生２名，学部４年生６名，金子芽生技能補佐員，そして新たに迎えた学部３年生４名を合わせた総勢22名で日々研究に邁進しております。昨年と人数は変わらないものの，より活気のある研究室となりました。

研究テーマとしては金子教授率いるチームが「ユビキチンリガーゼ」に着目した研究を行っており，未だ解明されていないユビキチンリガーゼを同定し，その生理機能と疾患との関係性を明らかにする中で創薬に挑戦しています。RNF183（腎臓特異的ユビキチンリガーゼ）の機能を解析し疾患との関与を明らかにする研究や，ACE2（SARS-CoV2受容体）とユビキチンの関係を明らかにし創薬に役立てる研究を行なっています。また，分泌効率の良いシグナルペプチドを同定することでmRNAワクチンへの応用を目指す研究を医薬品情報学研究室と共同して行っています。塚原准教授率いるチームは「機能性リン脂質」に関連した研究を行なっており，パーキンソン病をはじめとした神経変性疾患や変形性関節症のメカニズム解明とこれらに対する創薬を目指しています。そして研究室全体としては，現在の研究のさらなる発展と新しいテーマへの着手を目指し，それぞれのグループ内外に縛られず研究に関する意見交換を行いながら，日々実験に打ち込んでいます。

昨年開催された第96回日本薬理学会年会では当時博士前期課程２年だった唐木達哉先輩が学生優秀発表賞を受賞しました。博士前期課程２年の先輩方は無事に就職活動を終え，修論に向け研究に取り組んでいます。また，学生最後の学会発表を控えており，それに向けて準備を進めています。博士前期課程１年の私たちも初めての学会発表を控えており，それまでにより良いデータが得られるよう日々研究に取り組んでいます。また，就職活動も実験の合間を縫って行っており，先輩方のように希望通りの進路を選べるよう頑張ろうと思います。博士前期課程２年の先輩方が来年卒業されると私たちが最上級生となります。今は先輩方に甘えてしまっていますが，今後は責任感を持って，研究室員一丸となって協力し合い，互いを高め合えるような雰囲気作りを目指していきます。

私たちは研究活動以外のことにも積極的に取り組んでいます。昨年の研究室対抗スポーツ大会ではソフトボール，バレーボール，バスケットボール，フットサルの全種目に出場したものの入賞することはできませんでした。今年こそは優勝できるように，実験の合間を縫って日々練習に励んでいます。運動不足になりがちな研究生活においてはこうした活動が良い息抜きとなっており，さらに，研究室員の仲がとても深まっていくのを実感しています。

また，2020年春から長く生活に影響を与えている新型コロナウイルス感染症（COVID-19）もついに５類感染症となったことで，油断はできないものの収束に近づいており，研究活動に取り組みやすい環境が戻ってきたことを感じています。また，飲み会や会食の制限も無くなり，歓迎会や忘年会なども開くことができるようになりました。まだまだ気の抜けない日は続きますが，元の生活に戻れる日は近いのではないかと感じています。

大学内だけではなく社会においても活動スタイルの変化が起きており，我々には柔軟な対応が求められます。社会人に必要な自立性や計画性といったスキルを身に着けられる良い機会だと捉えることで，自己成長を意識した取り組みに励んでいきたいと思います。

薬化学研究室

博士前期課程２年　松田　拳
学部６年　岳本　大樹

薬化学研究室は現在，田中正一教授，上田篤志准教授のご指導の下，博士後期課程２名，博士前期課程３名，学部６年生３名，５年生３名，４年生４名，10月から加わった３年生４名と中国からの研究生１名の総勢20名で日々研究に邁進しております。

３月にはこれまで後輩の指導をしてくださった西岡さんや嘉数さん，池上さん，岳下さん，宮﨑さんが卒業・修了を迎えました。これからご活躍されることを心よりお祈り申しあげます。旅立つメンバーを見送り，現在では研究室員一団となって協力し，日々実験に打ち込んでいます。

今年３月に開催された日本薬学会年会（札幌）では，新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響も鑑み，開催形式がwebと現地のハイブリット形式にて開かれました。本学からも多くの学生が参加しており，当研究室から博士課程１名と私が参加しました。自身初の口頭発表とのこともあり，発表スライド，原稿の作成や発表練習には大変苦戦しましたが，担当教員の熱烈な指導もあり，なんとか発表を終えることができました。学会を経験する度に，自身の知識が偏ったものであり不足していると実感でき，残り少ない学生での研究生活を有意義に過ごさなければと感じております。５月には当研究室の学生実習を対面で実施することができました。実習を通して，後輩たちに知識や技術を伝えることの難しさや楽しさを感じるとともに，これまでの研究活動において学んできたことを再確認する良い機会となりました。

研究活動以外においても，イベントを通し研究室内のつながりを深めています。昨年度12月には，田中教授の出身地である香川県から取り寄せて頂き，皆で食す「うどん会」を開かれました。例年，修士１年と学部５年が中心となりますが，昨年度は男子学生しか居らず，調理に難航しましたが，協力の甲斐もあり納得の味となりました。最近の研究室では女性の新人が多いため，今年度のうどん会には期待が高まります。また，今年６月には，還暦を迎えられた田中教授のお祝いの会を開催し，これまで薬化学研究室に携わってくださった多くの卒業生の方にも参加して頂く形となりました。卒業生を中心とした講演会も開催され，在学時の様子や現在はどういった研究をなさっているかなどについて知る事ができ，研究室の繋がりの深さを感じる瞬間となりました。その後はホテルにて田中教授の還暦をお祝いし，記念品の贈呈や全員での写真撮影などを行いました。またお祝い会中にはwebにて卒業生の方ともお話しすることもでき，とても貴重な経験になりました。

このように，当研究室では研究活動以外にもイベント等を通し，研究室メンバーと支えながら充実した毎日を過ごしております。今後もより良い研究成果を出して，セミナーや学会等に積極的に参加し，見聞を広げることができるよう一層邁進して参ります。

末筆ではございますが，長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬品製造化学研究室

博士前期課程２年　　小出水真穂

薬品製造化学研究室では，特異な生物活性や構造を有する天然物の合成を研究の柱としており，近年では，創薬を目指した合成品の活性評価を目的に，本学部の他研究室や他学部との共同研究も行っています。

今年10月の薬品製造化学研究室は石原教授，福田准教授，小嶺助教の教員３名，大学院生８名，学部生11名の総勢22名の大所帯となっています。

Ｄ３の堤さんは，最高学年の学生として自身の研究テーマに対して精力的に取り組んでおり，またリーダーとして研究室をまとめて頂いています。私も含めて，辻本，三本，森，山崎の５人は，Ｍ２として博士前期課程も残りわずかとなり，修論発表会も控えているため，ターゲット分子の全合成達成に向けてより一層努力しています。岩永君，倉田君は博士前期課程に進学し，Ｍ１として各々のテーマに対して，今まで以上に気を引き締めて精力的に取り組んでいます。Ｂ６の錦織さん，池部君は卒業研究に取り組みながら，国家試験の勉強にも勤しんでいます。学部４年生の片山さん，川元さん，坂口君，中川西さん，福島さんは卒業研究に精を出しています。また10月から新しく４名の学部３年生，沖君，信國さん，平野さん，山本君が配属されました。慣れない研究室生活に戸惑うことも多々あるようですが，先輩から知識や技術を学ぼうというフレッシュで熱心な姿に，研究室の雰囲気もパッと明るくなったように感じます。

土曜日セミナーや学部生・大学院生のゼミもそれぞれ継続しており，４年前からは学部３年生を対象としたゼミも始まり，有機化学の実力向上のために皆で努力しています。

コロナ禍が落ち着き，今年度からは研究室行事も多数実施しております。夏休みスタート時には「突コン」を，９月には「研究室旅行」を開催し，つかの間の非日常を皆全力で楽しみました。今後も新３年生の歓迎会である「芋煮会」を始めとする様々なイベントを行う予定です。研究室生活における良い気分転換の機会となるよう，一つ一つの行事をしっかり盛り上げていくことで，より活発に実験を行っていけたらと思っています。

例年，高名な先生方の講演会がありますが，昨年度から対面での講演会が開催されるようになりました。普段なかなか聞くことのできない，非常に深いお話を直接聞ける貴重な機会を頂いています。また各学会に関してもコロナ禍以前のような，オンサイトでの開催が多くなりました。５月には当研究室と機能性分子化学研究室主催で，オランダとの7th Gratama Workshopを開催しました。その他にも天然有機化合物討論会で１件のポスター発表，複素環化学討論会で１件の口頭発表，ＦＪＳ日仏医薬精密化学会議では１件のポスター発表を行いました。参加したＤ３の堤さんの弁，「国内の学会ではお会いできない海外の先生方と研究についてディスカッションでき，とても良い刺激になりました」。今後も薬品製造化学研究室学生一同，日々の研究活動に全力で取り組み，より良い結果を残して，学会で活躍できたらと思います。

医薬品合成化学研究室

博士前期課程１年　　大前　壱織

医薬品合成化学研究室では現在，尾野村治教授，栗山正巳准教，山本耕介助教のご指導の下，博士後期課程５名，博士前期課程６名，学部６年生１名，学部４年生５名，学部３年生３名の計23名で日々研究活動に励んでいます。医薬品を目指した複素環化合物の効率的合成法，環境に配慮した電解反応，効率性と応用性に優れた触媒反応の開発をテーマとしています。

ここ数年流行していた新型コロナウイルスの感染も徐々に落ち着き，講義やイベント等の制約が緩和された学生生活を送っています。６月にはキス釣りが復活し，例年よりも短い時間ではありましたが，楽しく過ごすことができました。また，先日は４年ぶりに研究室旅行を行いました。修士１年が主となって計画したのですが，その他の学生も率先して買い出し等で協力してくれました。素晴らしい旅行になったと同時に，より一層研究室内の仲間意識が高まったと思います。

今年３月には研究室の中心として活躍された４名の先輩方が修了されました。３名は社会へ旅立ち，１名は博士後期課程に進学し引き続き研究室をまとめてくれています。博士後期課程５名は後輩に気を配り，皆が安全に実験できるように助言しながらも自身の研究活動に励んでいます。博士前期２年生は無事就活も終わり，修士論文，学会発表等に向けて日々研究活動に励んでいます。博士前期１年生は各々が大学院生としての自覚を持ち，学部生の頃より一層実験に力を入れています。学部４年生は教員や先輩に助言してもらいながら，実験スキルの向上に励み，卒業論文に向けて研究に取り組んでいます。また，新たに配属された３年生は学部の講義と研究の両立に苦しみながらも，教員や先輩から有機化学の知識や実験について真剣に学んでいます。

研究室内における論文紹介では，教員や学生の的確な指摘に対し，自身の考えを簡潔にかつ分かりやすく伝えることの大切さを肌で感じています。あらゆる研究の実態に触れることで新たな知識を取り入れることができ，それは自身の研究に生かすこともできます。

論文投稿も積極的に行っており，今年度は学生たちの日々の努力と先生方の手厚い指導により，計４報の論文を本研究室の研究成果として報告することができました。また，学会発表では博士前期課程２年の有田さんが日本薬学会第142年会の優秀発表賞を受賞されております。

このように，学生それぞれが日々の努力を絶え間なく続ける本研究室では個性的なメンバーが揃い，お互いが多くの刺激を受けております。また，今年度に行われた球技大会では持ち前の元気さとチーム力で他研究室を圧倒し，素晴らしい成績も残しました。文武ともに妥協しない，素晴らしいメンバーです。これからも，それぞれが研究力の向上を目指し，先輩方や教員との議論を盛んにした素晴らしい研究室づくりに努めて参ります。

末筆ではございますが，長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

ゲノム創薬学研究室

博士前期課程２年　　霜田　陸仁，野田　明希，山本　大樹

当研究室に配属されてから早３年が経ち，学生として過ごす期間も残すところあと半年となりました。思い返してみれば右も左も分からなかった配属当初から現在まで，困難な状況があっても頼もしい研究室のメンバーに支えられて乗り越えることができました。残された時間はあとわずかですが，少しでも恩返しができるよう日々の活動により一層励みたいと思います。

2023年３月には文武にわたり活躍した４名（博士前期課程：奥田泰生，米須拓也；薬学科：濱田麻希，藤井美里，敬称略）が当研究室を修了・卒業し，新しい環境へと旅立ちました。現在は博士後期課程の池水文香と岩元史織が中心となって，研究室の活動を盛り上げています。

今年に入り新型コロナウイルスの感染状況も落ち着き，４月からはこれまでオンラインで行っていたセミナーや中間報告会を対面で開催することができるようになりました。一方で研究に関するディスカッションはオンラインで行うなど対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式で研究室の活動を行っております。また，今年は新型コロナウイルス流行前まで毎年行っていたバーベキューが復活しました。今後，研究室のメンバーとの交流の機会がさらに多くなってくれることを期待しています。

当研究室では，研究室外でのイベントや学会にも積極的に参加しています。2023年６月に開催された日本生化学会九州支部例会において，博士前期課程２年の金本海斗と眞喜屋志穂が日々の研究成果を発表しました。今年は長崎大学で開催され，ゲノム創薬学研究室からは，多くの学生が参加しました。初めて学会に参加した学生も多く，他大学や他の研究室の方の発表に触れて良い刺激を受けることができたと思います。同年７月に開催された九州薬科学研究教育連合主催合宿研修では，博士前期課程１年の宮内完季が参加し，研究内容の紹介やディスカッションを行いました。同年８月には，大阪で開催された第11回認知症研究を知る若手研究者の集まりに博士前期課程２年の山本大樹と博士前期課程１年の宮内完季が参加し，他大学の学生や先生方と交流しました。今年から研究発表だけでなく，アイディアソンというグループワークがプログラムに追加され，活発な意見交換が行われました。同年10月には，客員研究員である八田大典を筆頭著者とする論文が雑誌The Journal of biochemistryに受理されました。

そして，10月からは３名の３年生（薬科学科：豊村凪生，椎葉大貴，高橋亜実）が新たなメンバーとして加わり，研究室の活気がより一層増しました。

ここ数年で研究室の活動にも変化がありましたが，これまでの研究室の伝統と新たに設けられた有用な規則をしっかりと順守することで，ラボメンバー全員で研究室を支えていこうと考えております。加えて，先述した学会や研修での分野内外問わず，学んだ知識や貴重な経験を活かすことで，今後の我々の研究活動が益々発展できるように邁進しよう，と固く決意しております。今後も研究室一同，一丸となって励んで参ります。

末筆ではございますが，長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

天然物化学研究室

博士前期課程２年　　壹岐　美里，谷口　由依

現在，天然物化学研究室は，田中 隆教授，齋藤 義紀准教授，松尾 洋介助教のご指導のもと，博士後期３年（２名）・博士後期２年（１名）・博士前期２年（２名）・博士前期１年（４名）・学部６年（３名）・学部５年（１名）・学部４年（４名），そして今年９月に学部３年（３名）が新しく加わり，計22名で日々，研究に邁進しております。

３月には，これまで一緒に切磋琢磨して研究に取り組んできた学生の卒業・修了を祝し，研究室内で小規模の送別会を行いました。さらに，長年にわたり当研究室を牽引してくださった田中 隆教授がご退官を迎えられ，対面とオンラインが融合したハイブリッド形式での最終講義が行われました。学内外問わず100名近くが参加した講義当日は，教授のこれまでのご活躍や研究に対する姿勢など貴重なお話をお聞きすることができ，実りのある時間になりました。幸いなことに，田中教授には今年度まで変わらずご指導していただいておりますが，来年４月からは新たな教授のもとでの研究室がスタートします。今後のさらなる展開が楽しみです。

新型コロナウイルスが以前よりも落ち着く中，10月には薬用植物学研究室と合同の植物観察会が長崎県民の森にて４年ぶりに開催されました。毎年恒例と聞いておりましたが，私たちＭ２と６年生を含め現在所属する学生のほとんどはこのイベントに初めて参加することがかないました。季節の植物を観察することで植物の知識が増えると同時に，研究室の仲間との絆を深める良い機会になりました。

当研究室では学会に積極的に参加をしております。ここ数年オンライン開催が多く，自分の机に座って学会発表をしておりましたが，今年からは開催地に実際に行って発表することが可能となり，日本薬学会第143年会（2023年３月，札幌），第65回天然有機化合物討論会（2023年９月，東京），日本生薬学会第69回年会（2023年９月，仙台），第66回香料･テルペンおよび精油化学に関する討論会（2023年11月，千葉）等で多くの学生が研究結果を報告しております。今年度参加した学会の中では，仙台での生薬学会がとても印象的に残っています。他大学や企業の方々の講演や意見交換を通して刺激を受け，より研究に精進したいと感じました。また，初めて複数名で現地の学会に参加することができたので，学会以外の時間に地元のグルメを堪能したり，近くの観光地をまわったりし，終始有意義な時間となりました。

私たちにとっては学生生活も残りわずかです。学部６年生にとっては11月の卒業論文発表会，２月の薬剤師国家試験，博士前期課程２年生にとっては２月の博士前期課程研究発表会が６年間の集大成になります。卒業後になかなか会えなくなる研究室員と過ごす時間も大切にしながら，勉学や研究に取り組んでいきたいです。

（敬称略順不同）2022年度３月修了・卒業生：髙吉 樹里（博士前期）・橋口 啓吾（博士前期）・藻利 翔（学士）・安松 美保（学士）
2023年度在学生：山下 貴子（博士後期３年）・刘 章彬（博士後期３年）・山本 崇太郎（博士後期２年）・壹岐 美里（博士前期２年）・谷口 由依（博士前期２年）・角田 航（博士前期１年）・大塚 涼央（博士前期１年）・永瀬 希憧（博士前期１年）・的野 英介（博士前期１年）・安河内 由宇人（博士前期１年）・福田 智志（学部６年）・大久保 千帆（学部６年）・佐藤 早紀（学部６年）・小澤 太志（学部５年）・上藤 快斗（学部４年）・菊池 孝輔（学部４年）・田部 聖翔（学部４年）・友部 桃子（学部４年）・天野 梨湖（学部３年）・市成 香保理（学部３年）・陣内 あい（学部３年）

機能性分子化学研究室

博士前期課程２年　　川本　誠也

機能性分子化学研究室では，山吉麻子教授，山本剛史准教授，三瓶悠助教のご指導の下，技能補佐員（２名）のお力を借りながら，博士後期課程２年（３名），博士前期課程２年（２名），博士前期課程１年（６名），学部６年（３名），学部５年（１名），学部４年（６名），2023年10月より配属された学部３年（５名），計26名の学生が研究・勉学に励んでいます。本稿では前号の同窓会報が発刊されてからの１年間で，当研究室で起きた様々なことに触れながら振り返りたいと思います。

2022年10月，当研究室にはとにかく元気でパワフルな３年生６名が配属されました。彼らは何もわからないまま始まったオリエンテーション実験に戸惑いながらも，やる気満々で実験に取り組んでおり，研究室生活３年目を迎えた私も改めて気が引き締まりました。同時に「もう自分は下級生ではないのだな」と気づき，私自身も「これまでお世話になってきた先輩方のようになろう！」と決心しました。

ところが，上級生として指導することの難しさを思い知ったのが同年10月末から始まった基礎実習でした。実験の手順や注意事項を，初めて実験をする２年生に理解してもらえるように伝えることに苦戦し，先輩方の偉大さを改めて痛感しました。

また，同じく10月には薬学スポーツ大会が開催され，当研究室はバレーボールで優勝，医薬品合成化学研究室と合同で出場したソフトボールで準優勝しました！新しく加わった３年生も含め，「機能性」の仲が深まったイベントとなりました。

2023年３月の学位授与式では，修士（薬科学）４名の先輩方が卒業・就職され，学士（薬科学）４名が卒業・進学しました。研究室に配属されてからの２年半にわたり，先輩方から多くのことを学び，先輩方のおかげで楽しい研究室生活を送ることができていた私にとっては本当に寂しいお別れでしたが，先輩方が新たな場所でご活躍されることを心から祈りながらお送りしました。

そして同月を以て，山本准教授がこれまで社外取締役を務めてこられたベンチャー企業へと拠点を移されました。現在，山本准教授は殆ど大阪におられますが，クロスアポイントメント制度により４月以降も長崎大学薬学部の准教授を兼任しておられ，継続してご指導いただいております。私自身，それまで約２年半にわたりご指導いただいた山本准教授がご不在となると伺った当初は驚きや不安がありましたが，今ではチャットやオンラインミーティングを活用したディスカッションにも慣れてきたように思います。実験結果や自分の考えを文章やスライドで伝える際には，対面でのディスカッションに比べて難しさも感じますが，こうした苦戦はこの環境だからこそ得られる経験だと捉え，日々葛藤しております。

新年度を迎えた当研究室には，博士前期課程に新たに３名の仲間が加わり，さらに明るく賑やかになりました。山吉教授が率いる「機能性」といえば，やっぱり飲み会は大事ですよね！この時の歓迎会も楽しかったです！

ここまで，大きなイベントに注目しつつこの１年間を振り返ってきましたが，研究活動に目を向けても，当研究室では輝かしい成果を挙げています。2022年10月には大山将大さんが第９回日本細胞外小胞学術集会にてポスター発表奨励賞を受賞しました。2023年３月，中尾樹希さんの研究成果が国際学術雑誌ChemBioChemに掲載され，掲載号の表紙に選出されました。さらに同誌に「化

学と生物学の次世代を担う科学者」として認定され，特別号「ChemBioTalents 2022/23」においても紹介されることになり,「Chem-Station スポットライトリサーチ」においてもトピックが掲載されました。同年３月には小嶋厚弘さん，大山将大さんが学長賞を，椿隆太郎さんが薬科学科卒業研究発表会にて優秀発表賞を，秦萌花さんが下村脩博士記念成績優秀者賞を受賞しました。また同年３月の日本薬学会第143年会では，寺田知邑さんが学生優秀発表賞を受賞しました。同年７月の九州薬科学研究教育連合主催合宿研修では，外山春樹さんと秦萌花さんが優秀賞を受賞しました。当研究室の先生方や先輩方，後輩の皆さんの活躍を誇らしく思うと同時に，私自身も残り半年の研究室生活をより充実させたいと思います。

末筆ではございますが，長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

衛生化学研究室

博士前期課程２年　吉岡　響
学部６年　中島　侑子

衛生化学研究室では，鳥羽陽教授，安孫子ユミ准教授，吉田さくら助教（平19），博士後期課程３年１名，博士前期課程２年２名，博士前期課程１年３名，学部６年生２名，学部５年生１名，学部４年生６名，2023年10月には３年生５名が当研究室に新たに加わり，新しいメンバーとコミュニケーションを積極的に取りながら研究活動に励んでいます。当研究室の最近の様子についてご報告したいと思います。

2022年12月には事務補佐員として中島智里さんが入職され，私達の研究室生活を支えていただいております。また，2023年１月には吉田さくら助教がオーストラリアへ留学され，新天地でもご活躍されています。2023年３月20日の学位授与式では博士後期課程３年生１名，3月24日の学位授与式では薬科学科４年生３名，博士前期課程２年生３名の計７名が長崎大学を卒業・修了し，就職または大学院に進学しました。大変お世話になった先輩方の門出を祝福するとともに寂しさも感じましたが，先輩方に教わった多くのことを活かしながら日々精進しています。

昨年度までは新型コロナウイルスの拡大によって様々な制限が設けられ，私達の生活に大きな影響を与えていましたが，今年度からは感染者数の減少によりその制限が緩和されました。これにより，感染対策として黙食を余儀なくされていた昼食を，少しずつではありますが研究室員と談笑しながら食べることができるようになり，研究室員との交流の場が広がりつつあります。しかしながら，新型コロナウイルスが終息したわけではないため，現在も手指の消毒や換気などの感染対策を徹底しながら，研究活動に勤しんでおります。

また，制限が緩和されたことにより今年度からは様々なイベントを企画・開催を行いました。春にはボーリング大会，夏にはココウォークのビアガーデンに行き，先生方やメンバーと仲を深めることが出来ました。また，９月には研究室旅行として熊本のグリーンランドに出かけました。遊園地ではジェットコースターやお化け屋敷などのアトラクションを楽しみ，夕食では熊本名物の馬刺しを食べました。普段味わうことの出来ない体験ができ，とても満足した旅行になりました。

末筆ではございますが，長薬同窓会の皆様のご健闘と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬品分析化学研究室

博士前期課程１年　　小菅　侑馬

現在，薬品分析化学研究室は，黒田直敬教授，岸川直哉准教授，Mahmoud Hamed Elmaghrabey助教，博士課程４年（１名），博士後期課程３年（１名），博士前期課程２年（４名），博士前期課程１年（３名），学部６年生（１名），学部４年生（６名），そして今年の10月に学部３年生（３名）が新しく加わり，計19名の学生が日々研究に取り組んでいます。また，昨年の７月からエジプトのマンスーラ大学に赴任されていたMahmoud Hamed Elmaghrabey先生が今年の５月より再び当研究室の助教として着任され，研究活動がより一層活気づいております。

2022年３月には学部生が７名，博士後期課程の学生が１名，９月には博士前期課程の学生が１名，研究室を卒業・修了し，進学または就職されました。研究に取り組む姿勢や後輩への指導など私達の手本となるような姿を見せてくださった先輩方や大変だった研究室生活を互いに助け合いながら和気あいあいと過ごした同期のおかげで，私自身とても充実した日々を送ることができました。尊敬する先輩や仲の良い同期が当研究室を去ることに寂しさを感じますが，皆さんの新しい環境でのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

研究に関しましては，九州分析化学若手の会夏季セミナー（北九州），次世代を担う若手のためのフィジカル・ファーマフォーラム（PPF2023）（京都）など様々な学会において発表を行いました。その中で，博士後期課程３年のKaladari Fatema Khaledさんが九州分析化学奨励賞を受賞されました。また，10月下旬にクロマトグラフィー科学会議，11月中旬に日本薬学会九州山口支部大会が開催され，当研究室からも数名が発表する予定です。

新型コロナウイルス感染症が今年の５月から５類感染症となり，これまでの規制が緩和され，多くの講義が対面で行われるようになり，徐々にコロナ前の生活に戻りつつあるように感じます。研究室のイベントにおいても，キス釣り，ボーリング大会，研究室旅行など実施できなかったイベントもありますが，新型コロナウイルス感染予防に留意しつつ，卒業生の送別会や３年生の歓迎会など昨年までは開催することが難しかったイベントを行うことができ，大変嬉しく思います。まだ全ての研究室のイベントが行えていないことは残念ですが，他のイベントも少しずつ実施できればと思っております。

10月からは，例年通り薬品分析化学研究室がトップバッターとして，学部２年生の学生実習を担当致しました。昨年まではコロナ禍ということもあり，一部オンラインで実施しておりましたが，今年はすべての日程を対面で行うことができました。少しでも２年生の印象に残る実習になっていれば良いなと思っております。

日々のご多忙の中，薬品分析化学研究室出身の卒業生の皆様に少しでも懐かしく感じていただければ幸いです。OB・OGの皆様，近くまでお越しの際は是非とも研究室にお立ち寄りください。卒業された先輩や同期の皆様とは，お目にかかれる日を心待ちにしております。最後になりましたが，長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げ，近況報告とさせていただきます。

薬物治療学研究室

学部５年　　金城　寿希

昨年度３月に５名の薬学科生が卒業され，本年度10月に５名の薬学科３年生が新たに配属となり，より一層賑やかになりました。現在は塚元和弘教授，平山達朗准教授のご指導のもと，22名の学部生が日々研究に取り組んでいます。

本研究室では，臨床の現場で問題となる患者間の個体差や，カンジダ属の病原因子の解析とゲノム編集を研究テーマとしています。遺伝子多型班は,「クローン病に対するインフリキシマブの治療抵抗性」や「ピロリ菌感染者の萎縮性胃炎の発症や進行」をテーマに相関解析を行っています。機能解析班は，細胞株を用いて，疾患の発症・進展や治療抵抗性と相関した遺伝子多型がその遺伝子の発現や機能にどのように影響しているのかを解明しています。また，2022年度から研究をスタートしたカンジダ属の病原因子解析班は，カンジダ属と緑膿菌の相互作用や薬剤耐性について研究を行っています。

本研究室では，英語科学論文を紹介したり，研究の進捗状況を報告したりするために，セミナーを週に１回行っています。先生方から意見を伺ったり，学生同士で質問をしあったりすることで，お互いに知見を広げることができ，研究のモチベーションにもつながっています。また，昨年度からオンラインではなく対面で学会に参加する機会も増えてきており，本研究室の研究成果を発表する事が出来ています。

新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度までは研究室旅行を行えていませんでしたが，今年度は８月に１泊２日で伊王島へ行き，研究室旅行を楽しむことが出来ました。バーベキューや花火，海水浴など夏らしい行事で研究室のメンバーと交流する機会が出来，より一層仲を深めることが出来ました。また，感染対策を十分に行いながら，10月に薬学部スポーツ大会が開催されました。本研究室はバレーボールとバスケットボール，ソフトボールの３種目に出場し，昨年よりも多くの競技に出場し，勉学だけでなくスポーツにも活発な研究室になっていると感じました。新しく入ってきた３年生との仲も深まって和気あいあいとした雰囲気で非常に盛り上がり，スポーツ大会を楽しむことが出来ました。

研究室では，４年生はOSCEやCBTに向けて勉強を頑張っており，５年生は卒業研究に熱心に取り組んでいます。６年生も３年生への指導，卒業論文作成とその発表会，国試対策と多忙な時期ではありますが，残り少ない時間を一緒に楽しく過ごしていきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症の状況が日々変化する中で，引き続き感染防止対策に努めながら，対面による授業や実験を行う事が出来ています。この感染症と上手く付き合っていきながら，これからも研究室一丸となって勉学と研究に励んでいきたいと思います。最後になりましたが，長薬同窓会会員の皆様のご健康とますますのご活躍をお祈り申し上げ，近況報告とさせていただきます。

医薬品情報学研究室

博士前期課程２年　　山下　和真

医薬品情報学（旧医療情報解析学）分野は，川上茂教授（平７），向井英史准教授，毛利浩太特任准教授，藁科翔太特任助教，野村祥子特任助教，神谷万里子特任助教のご指導の下，３名の博士課程学生，３名の博士前期課程学生，20名の学部生が日々研究に励んでおります。2023年３月には，博士課程学生４名，博士前期課程学生１名，薬学科学生４名，薬科学科学生１名の修了・卒業を迎え，アカデミア・製薬企業・病院薬剤師・薬局薬剤師と様々な方面から薬学を支える人材が，新天地へと飛び立たちました。新年度を迎え，毛利浩太特任准教授，藁科翔太特任助教，野村祥子特任助教，神谷万里子特任助教の４名の教員が新たに着任され，３年生２名が早期配属されました。10月には３年生３名が配属され，現在に至っております。さらに，９月に博士課程を修了したGeng LongJian博士が研究員として加わり，留学生を含めて活発な議論が行われております。

本研究室では，Drug Delivery System（DDS）を進展させる革新的な基盤技術の開発に向け，遺伝子･核酸医薬やワクチン製剤，細胞製剤など多様かつ複雑な次世代モダリティへの理解を深め，その動態を解析･制御することで疾患治療に貢献する「創薬研究」に取り組んでおります。具体的には，１）標的指向型の核酸封入脂質ナノ粒子製造体系の構築，２）脳を標的とした核酸医薬の薬物送達システムの開発，３）mRNA送達を基盤としたT細胞誘導型ワクチンの開発，４）マイクロ流体法を利用した機能化細胞外小胞製剤の開発，５）難治性がん治療を目的としたデザイナー細菌の開発，６）PETやSPECTによるコンパニオン／プレシジョン診断薬の開発に関する研究を進めております。いずれの研究においても，得られた成果を迅速に臨床へと繋げられることを念頭に置き，次世代モダリティ医薬品展開の一助となるよう研究を進めております。また，当研究室では，企業や大学病院，他大学との共同研究を盛んに行っており，学部生のうちから，多分野にまたがる共同研究へ携わる機会も得られます。共同研究を通して異なる分野の研究に触れることは，自分の専門性や社会性を磨くことにも繋がると考えております。

研究室内での活動として，研究レベルの向上を旨とした論文紹介（セミナー）を，学年や課程に応じた形式で行っております。大学院生を中心に，複数の論文を体系化し，自分の研究テーマに特化した総論としての発表にも挑戦しております。その過程で学ぶことは非常に多く，ⅰ）論文中のデータの正確な解釈，ⅱ）周辺の研究の中と比較した自らの研究の新規性，ⅲ）論理的に発表する力などを養うことに繋がります。また，このセミナーの準備において，先輩や後輩とディスカッションすることで，研究室内での絆が深まる一助ともなっております。

医薬品情報学分野では，大学院生のみならず，学部生も積極的に自分の研究成果を学会で発表しております。2022年度は，日本薬学会年会，日本薬剤学会年会，日本DDS学会学術集会，日本薬物動態学会年会，日本核酸医薬学会年会，日本バイオマテリアル学会大会などの様々な学会での発表に取り組みました。また，川上茂教授のパーティクルデザイン賞受賞を初めとして，2022年度から現在に至るまで，９件の受賞をご報告することができました。研究成果に関して高い評価を頂いたことを光栄に感じますとともに，ひとえに研究室の先輩方を含めた関係者のご支援の賜物と感謝申し上げます。

こうした研究活動の一方，新型コロナウイルス感染症が５類感染症へと移行したことで，研究室イベントにも

盛んに取り組んでおります。2022年度の球技大会では，バスケットボール・ソフトボールにて，一致団結して優勝することができました。2022年３月には，卒業生の送別会を研究室員全員でランチ会として開催し，続く４月，10月には先生方や３年生の歓迎会を企画し，終始和やかな雰囲気で，親睦を深めました。

このように当研究室では，何事にも熱心に取り組み，皆が研究室の一員であるとお互いに協力することで，充実した研究生活を送っております。卒業された先輩方，お時間がございましたら是非とも研究室にお立ち寄りください。研究室の様子や近況は，ホームページにも記載しておりますので，どうぞご覧下さい。

最後になりましたが，長薬同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬剤学研究室

学部５年生　　**一同**
院１年生　　**一同**

本年度の薬剤学研究室は，西田教授，麓准教授，宮元助教のもと，研究協力員１名，博士９名，修士３名，６年生５名，５年生５名，４年生６名，４月からは今年度から初めて導入された早期研究室配属にて３年生３名，10月からは３年生２名が加わり，計37名で構成されています。３月には，にぎやかで後輩思いの素晴らしい先輩方が５名卒業され，非常に寂しい思いをしました。４月と10月に加入した３年生も研究室活動に熱心に取り組んでおり，研究室をさらに盛り上げてくれています。また，昨年度８月からアメリカのニューメキシコ大学へ１年間研究留学なさっていた麓准教授が帰ってこられてさらに研究室に活気が戻ってきております。

当研究室は生物薬剤学を中心として，物理薬剤学および臨床薬剤学を強く意識した研究を展開しており，体内の特定臓器や病巣などの標的部位に，医薬品を選択的かつ持続的に送達する研究を行っています。そのためには，医薬品の体内における挙動を把握する必要があり，様々な角度から解析しています。研究班は大きく３つに分かれており，腹腔内の臓器表面からの薬物吸収を利用した薬物ターゲティングを研究する「表面投与班」，遺伝子治療実現に向けた遺伝子デリバリーを研究する「遺伝子班」，病態時および各種治療時における薬物療法の個別化を研究する「動態班」があります。それぞれの班で西田教授，麓准教授，宮元助教が中心となって，お忙しい中，学生に丁寧な御指導や御面談をされています。

前回の報告以降では，麓准教授の学術論文が令和４年度長崎大学『インパクト論文賞』を受賞しました。宮元助教は共同研究成果が新潟大学・長崎大学でプレスリリースされ，さらには日本薬学会九州山口支部学術奨励賞を受賞する等のご活躍をされております。学生では，３月に博士号を取得された胡蝶さんの研究成果がInternational Journal of Pharmaceutics誌に，赤城さん（D３）の研究成果がChemical and Pharmaceutical Bulletin誌に受理されました。岡見さん（D３）は薬学部育薬研究教育センター主催の第７回若手シンポジウムで優秀発表賞を受賞されました。また，卒業された作田さん，宮本さん，中嶌さん

（M1）が下村脩博士記念成績優秀者賞，作田さんが学部長賞を受賞し長崎大学卒業式で総代を務めました。学位記授与式では満留さん（D1）が学長賞を受賞しました。

コロナ禍の影響でオンラインで行っていた朝ミーティングの対面実施が10月から復活し，研究室員は進捗状況と向こう１週間の研究計画を発表して，１日の始まりを気持ちよく迎えて日々積極的に研究に励んでおります。また，文献紹介・研究報告・英語セミナーを行う毎週の全体セミナーは対面で実施し，学生による質問が飛び交っています。また，全体セミナーとは別に班セミナーも巧みに活用して実施しており，少人数のより濃密なディスカッションの中で，学生は教員の研究姿勢，豊富な知識量に触れ，研究とは何たるかを学んでいます。

研究・学習面以外では，コロナ禍が落ち着いてきたため対面での飲み会も実施できるようになり，本年度の夏には暑気払いとして研究室全体でビアガーデンに行き，研究班の垣根を超えた交流を通してさらに親睦を深めることができました。また，９月には西田教授の還暦お祝い会をホテルニュー長崎で行い，現研究室員のほか卒業生の方々も含めて計55名の方に出席いただき，西田教授の還暦を祝福するとともに，久しぶりに顔を合わせて懐かしい思い出話に花を咲かせました。

卒業生の皆様，毎年お中元，お歳暮などたくさんのご支援をいただきありがとうございます。皆で分配して美味しくいただいており，大変感謝しております。直接会ってお話ししたいことがたくさんありますので，長崎・研究室へぜひお立ち寄りください。当研究室のWebサイト（https://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/lab/dds/）には，学術情報や研究室のニュース・案内などを随時更新していますので，ぜひご覧ください。

最後になりましたが，長崎大学薬学部同窓会の皆様のご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

実践薬学研究室

学部５年生　　**一同**

新型コロナウイルス感染症の５類への引き下げを受け，対面での授業実施や会食等の規制が解除されるなど以前の学生生活が戻りつつあります。長薬卒業生の先輩方はご健勝にてお過ごしでしょうか。当研究室は平成17年８月に中嶋幹郎先生（昭57）が初代教授として着任されてから今年で19年目を迎えました。また，平成30年４月に黒﨑友亮先生（平12），令和４年６月に相原希美先生（令３）が助教として着任されました。今年は相原先生に第一子が誕生しました。また，令和４年２月に大山要先生（平12）が長崎大学病院教授・薬剤部長に昇進されましたが，現在も我々学生の研究を見てくださっています。令和５年３月には，薬学科６名が卒業し，病院薬剤師・県庁・ドラッグストア・企業と幅広く活躍しております。令和５年11月現在，当研究室には先生方３名，博士課程大学院生３名（社会人２名含む），技能補佐員１名，学部生16名の計23名が所属しております。

現在，学部６年生は薬剤師国家試験に向けた勉強と同時進行で，卒業論文の発表会の準備にも注力する毎日を過ごしております。令和５年９月28日に行われた長崎大学薬学部育薬研究教育センター第７回若手シンポジウムでは，学部６年生２名が各々の研究成果の発表を行いました。その

中で,「関節リウマチ患者の血清におけるシトルリン化抗原の同定」について発表した宮崎麟太朗さんが優秀発表賞を受賞されました。来年は先輩方のように素晴らしい発表ができるよう,私たち５年生一同も日々の研究に精進してまいりたいと思います。学部５年生は薬局・病院実習を終えました。今年度も感染に十分注意しながら，薬局・病院実習ともに実地にて行われ，臨床現場にて現役薬剤師の先生方からご指導いただくことができました。多くの刺激を受け，少しずつですが成長を感じる日々を過ごしております。また，実習終了後は研究室にて各自の研究を進め，論文作成に着手しています。今年は大山先生が教授に着任された分子病態化学研究室と合同でセミナーを開催しており，様々な角度からの意見を取り入れながら研究に励んでおります。学部４年生は薬学共用試験（OSCE･CBT）に向けて事前実習に励んでいる所であります。将来薬剤師となるための基礎作りとして，しっかりと勉学に励み，全員で薬学共用試験に合格できるよう願っております。10月には学部３年生３名が配属されました。３年生が少しでも早く研究室活動に慣れるよう，在学生一同サポートしていく所存です。

先述いたしましたとおり，大山先生は長崎大学教授への昇進により分子病態化学研究室に着任されましたが，学部６年生の卒業論文発表に向けた準備や学部４・５年生の研究指導等，引き続きご尽力いただいております。相原先生は現在育児休業中ですが，指導者として気にかけてくださり，時間をみつけてはオンラインにて相談にのっていただいております。変わらず指導・教育に励んでくださっている先生方には感謝の念が堪えません。その中で私たち学生も主体的に動くことの重要性を再認識し，研究室の運営や測定装置の管理などを協力して行っているところです。今後とも素晴らしい先生方の下，今までに卒業された先輩方のように教養・知識・技能を兼ね備えた薬剤師として，未来を切り開いていけるように邁進していく所存であります。

末筆ではございますが，長薬同窓会の皆さまのご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

薬用植物学研究室

博士後期課程３年　　**池本　瑞季**

現在，薬用植物学研究室は，山田耕史准教授のご指導の下，大学院生３名，学部生５名の計８名で日々研究に取り組んでいます。当研究室ではおもに植物や海洋生物，またそれら由来の菌類が生産する活性成分の単離及び構造解析，活性試験などの研究を行っています。

ここ数年は新型コロナウイルスの影響で研究室内の行事もあまりできず，学生同士の関わりが薄れていましたが，今年は制限も緩和され，２月末には大橋さん，３月末には吉田さんの送別会を行いました。最後にお話しすることができて嬉しかったです。新天地でも元気に頑張っていってほしいと思います。今後は徐々に行事を復活させ，学生の関係性を深め，研究についての話も積極的にできるようにしたいと思います。

新年度の４月には例年通り薬用植物学の基礎実習として，３年生に薬用植物のスケッチや漢方の調製などに取り組んでもらいました。毎年スケッチが上手だった学生さんには植物園の果物を収穫できる権利が与えられるのですが，実際に権利を行使する人が少なく，寂しく感じておりました。ところが今年は何人かが実際に権利を行使しに来てくれるという嬉しい出来事がありました。

また今年度上半期のＮＨＫの朝ドラは植物を題材にしたものであり，個人的に興味をもって観ることができました。本学の薬用植物園にはさまざまな植物が植栽されているので，四季折々移り変わる草花の観察にぜひお越しください。

８月には研究生として所属していた留学生の董さんの院試がありました。言葉の壁があるなかで無事に合格し，10月からは晴れて大学院生として授業や研究に励んでおられます。私どもの研究室は比較的留学生が多く，現在，董さんと陳さんの二人が所属しております。中国の植物や食事などについて会話したり，中国の食べ物を持ってきてくれたりする中で，中国の文化に触れることができ興味深いです。二人とも日本語が上手で国の違いを忘れかけることもあるのですが，異国の地でのさまざまな活動で大変なこともあると思いますので，研究室の全員でサポートしていきたいと考えています。

薬学科の森川さんは８月から実務実習，田上さんは10月から事前実習が始まっています。大変だと思いますが，将来薬剤師として働く際に必要な実技をしっかり覚えてきてもらいたいと思います。また,10月初旬には３年生の浅田さんと友寄さんが研究室に配属になり，いっそう賑やかになりました。研究についてまだまだわからないことばかりだと思いますので，しっかりと指導していきたいと考えます。

そして10月中旬にはコロナ前まで毎年天然物化学研究室と合同で行っていた植物観察会が４年ぶりに開催されました。秋開催は初めてということで，花が咲いているような植物は少なかったものの，木や葉だけで植物を見分ける方法など，また新たな知識を習得することができました。

私個人としては約６年所属していた当研究室から３月をもって出ていくこととなり，寂しい気持ちがありますが，最後まで研究や後輩指導に励みたいと思います。また研究

室員一同としましても，各々が自分の研究に一層力を入れ，卒論や修論，国試に向けて精を出していく所存です。

最後になりましたが，長薬同窓会の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げ，近況報告とさせていただきます。

臨床研究薬学研究室

学部６年　　山口　彩月

私たち臨床研究薬学研究室は，昨年度３月に１名の先輩が卒業され，本年度10月に薬学科３年生３名が新たに配属となりました。現在は都田真奈教授（平９），北里海雄准教授のもと，６年生１名，５年生３名，４年生４名，３年生３名の総勢13名で日々研究に取り組んでいます。

当研究室では，感染免疫研究と疾病予防研究２つをテーマに研究を行っています。都田教授の下では既存代謝調節薬による感染免疫調節の機序を明らかにすることを目的として，マウスマラリア感染モデルを用いた研究をしています。北里准教授の下では乳酸菌代謝産物の免疫調節機序の解析や，マクロファージ系細胞を用いた免疫関連の解析をしています。

また，当研究室では毎週金曜日にセミナーを実施しています。各学生が文献紹介や研究進捗報告を行い，先生方の丁寧なご指導や，学生同士の意見交換により，活発で有意義な議論となり，日々の研究につながっていると感じます。

昨年12月末には，毎年恒例の大掃除を行いました。当初の予報は大雪で少し心配でしたが，当日は晴れ，みんなで協力しながら日頃簡単な掃除で済ませている箇所も綺麗に仕上げることができました。また，年が明けた１月には少し遅めの３年生歓迎会を行いました。事前募集した質問に答えてもらうコーナーもあり，より親睦を深めることができました。そして４年生は薬学共用試験（OSCE・CBT）を，５年生は薬局・病院実習を無事に終えました。今年度に入ってからは当研究室の基礎実習が行われ，当研究室の学生はスチューデントアシスタントとして，北里准教授と協力しながら約１ヶ月前から事前準備と当日のサポートを行いました。実習は例年６月実施でしたが今年は４月に行われ，近年短縮されていた実習内容も今年はコロナ禍前の内容での実施となりました。そのため事前準備など変更点もありましたが，新４年生・５年生ともに精力的に取り組んでくれました。実習生には環境細菌の採取やグラム染色などを通じ，基本的な手技や知識・考え方を身に付けてもらうことができたのなら嬉しく思います。我々研究室員も事前準備や学生に教えることを通じて，理解や技術を深めるいい機会となりました。

そして９月28日には当研究室教員所属の育薬研究教育センター主催である第７回若手シンポジウムが行われました。当研究室からは６年生の私が発表を行いました。先生方には発表スライドや構成などを丁寧にご指導いただきました。また，他の研究室の学生の素晴らしい発表を聞くことができ，卒論発表前の貴重な機会となりました。10月現在，先生方は事前実習の指導を担当され，４

年生，５年生はそれぞれの実習に励み，再び静かな研究室となっていますが，研究や国試に向けて精を出す研究室員とともに，新しく配属された３年生にも少しずつ研究室生活に慣れていってもらえるよう私もサポートしていきたいと思います。末筆ではございますが，長崎大学薬学部同窓会の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

分子病態化学研究室（旧治療薬剤学研究室）

学部４年　北嶋　咲彩
学部４年　根本　鈴菜

分子病態化学研究室は，旧治療薬剤学と同様，長崎大学病院の薬剤部に併設されている臨床系の研究室で，大学の研究・講義棟ではなく，実際に臨床業務を行っている薬剤部のすぐ隣の部屋で研究を行っています。2023年度からは，新型コロナウイルス感染症の影響もほとんど収まり，例年と同じような生活を送ることができるようになってきています。研究室内でのイベントとしては，感染予防対策のための人数制限も考慮しつつ，３月には６年生の送別会を行いました。文教キャンパスや坂本キャンパスにある他の研究室とは違い，臨床で活躍している薬剤部の先生方の隣で研究ができる環境なので，学生の間から医療現場の雰囲気を感じ，先生方の話を聞くことができる大きな特徴があります。

これまで率先して研究室を引っ張ってくださった４名の先輩方が卒業され，今年の10月から学部３年生３名が研究室に加わりました。現在の分子病態化学研究室のメンバーは，大山要教授，兒玉幸修准教授と学部６年生１名，５年生３名，４年生２名，３年生３名の学部学生計９名です。他にも，里加代子先生をはじめとする大学病院薬剤部の先生方にも指導していただく学生もいます。このように，先生方や先輩方に指導していただきながら，日々研鑽を重ねています。

現在の分子病態化学研究室の主な研究は，以下の通りです。

１）タンパク質の網羅的解析による病態解明：
免疫系は体内の分子異常を高度に検知・排除する生体防御機構である。免疫系が異物認識して形成する抗原-抗体複合体に着目し，これを網羅的解析し疾患特徴的な抗原タンパク質を特定する独自解析を通じ，分子異常から病態形成の本質に迫る。

２）遺伝子･核酸医薬の新規デリバリーシステムの開発：
安全で遺伝子導入効率の高い遺伝子ベクターを開発し，組織や細胞局所への遺伝子送達法に関する研究を進めており，遺伝子・核酸医薬による治療や再生医学に貢献できる新たな治療法の可能性を探究している。

３）薬物治療の最適化と医薬品の適正使用に関する研究：
治療薬物モニタリング（ＴＤＭ）を用いた投与設計を行う上で，薬物動態に影響を及ぼす因子や併用薬物による相互作用に関する研究を行っている。また，薬物の最適投与剤形や投与方法を合理的に推測するために，各種薬物適用時の動態学的プロセスと薬力学的プロセスを数学的に解析し，体系づける臨床薬物速度論的研究を進めている。

薬品構造解析学研究室

准教授　　真木　俊英

薬品構造解析学研究室は，2023年３月に薬学科の松永さんが卒業し，客員研究員として在籍していた周博士が，母国のコロナ規制が緩和され，帰国を果たしました。

６年生となった米崎さんは，卒論の目処をつけ国家試験合格を目指して学習を進めています。５年生の茶屋さん，尾上さんは，実務実習で実技を研鑽しています。４年生となった松下さんと京極さんは，OSCEの準備を進めています。10月から３年生の市井さんを迎えました。

周さんと入江さん，松永さんにご協力いただいた論文２本がDyes and Pigmentに掲載されました。［1，2］また，これらの成果を含む引き続く成果を，７月の国際会議The 31st International Conference on Photochemistry（ICP2023 in 札幌）で発表しました。

また，９月に４年生の京極さんと2023年光化学討論会（in 広島）で発表しました。企業から化合物の試験提供を申し込まれるなど，多方面へ事態が進展しています。

10月に共同研究を行っている先端創薬基盤センター（田中義正教授）へ，ガーナ共和国からGeorge Kwaw Ainooson博士が来日しました。Georgeは，３年前に当研究室に客員研究員として在籍していたQwesi Prah Thomford博士の先輩にあたる方だそうです。余談ですが，彼らのミドルネームは誕生日の曜日が付けられているそうです。在留資格申請書の作成を事務補佐の岡本さんに手伝っていただきました。一方，2024年春には，当研究室にパキスタンから客員研究員を迎える予定です。手続き上は，その半年～１年前の方が大変です。

研究室には，事務補佐員の岡本さんが育てている多肉植物が繁茂しています。コロナによる規制はほぼ無くなりましたが，導入した衝立は各人が集中して作業するには良い環境だと思い，引き続き利用しています。

［1］https://doi.org/10.1016/j.dyepig.2022.110963
［2］https://doi.org/10.1016/j.dyepig.2023.111081

庶　務　報　告

岸川　直哉（平10）

○令和５年度定例理事会
令和５年４月２日（日）長崎大学薬学部第一講義室（本部役員17名，学年理事23名出席）

○令和５年度長薬同窓会定期総会
令和５年６月17日（土）大分市開催（本部役員９名出席）

○令和５年度 各支部総会
・ぐびろ会総会（６月24日 出席者：藤島副会長）
・熊本支部総会（９月２日 出席者：七種副会長）
・長崎県央支部総会（10月15日 出席者：山口会長）
・長崎県北支部総会（10月22日 出席者：山口会長）
・関東支部総会（11月11日 出席者：中嶋副会長）

○令和５年度長薬同窓会関連施設の維持・管理
・グビロが丘下薬専防空壕跡地慰霊碑周辺の清掃（８月６日 本部役員12名）
・長崎大学薬学部昭和町校舎跡記念碑清掃（８月21日 本部役員２名）
・分析窮理所跡地記念碑清掃（８月26日 川上副会長）
・旧小野島校舎跡記念碑周辺清掃（11月３日 県央支部６名）

○長崎大学，長崎大学校友会との連携協力（令和５年１月～令和５年12月）
・長崎大学卒業証書・学位記授与式参列（３月24日 参列者：中嶋副会長）*令和４年度事業
・長崎大学校友会アドバイザリー・ボード参加（３月24日 参加者：中嶋副会長）*令和４年度事業
・長崎大学佐世保交流会参加（８月４日 参加者：中嶋副会長，澤勢副会長）
・長崎大学ホームカミングデー2023 参加（11月４日 参加者：山口会長，中嶋副会長，松尾会計幹事）
・長崎大学交流会参加（11月20日 参加者：中嶋副会長，澤勢副会長，岸川庶務幹事）

○長崎大学薬学部との連携協力
長崎大学薬学部卒業式参列（令和５年３月24日 列席者：澤勢副会長）*令和４年度事業

○長崎大学医学部主催原爆関連事業への協力
長崎大学医学部主催原爆犠牲職員・学生慰霊祭への参列（令和５年８月９日 参列者：川上副会長）

○令和５年度白衣贈呈式（９月28日 参加者：澤勢副会長，同窓会関係者７名）

○寄贈
下記の通り，令和４年８月から令和５年７月までの間に同窓生の方より寄附金１万円が寄せられました。
昭58　菊本　めぐみ 様　10,000円

○定例理事会
令和５年４月２日（日）13時00分より薬学部第一講義室で開催されました。山口正広同窓会長（昭56）の挨拶の後，令和４年度事業報告および決算報告，監査報告，庶務報告，会則変更案，令和５年度事業計画案および予算案，令和６年度定期総会開催場所ならびに遠藤武男先生寄附金活用方法の決め方について討議がなされました。
続いて，大分支部石橋　眞支部長（昭49）よりレンブラントホテル大分（大分県大分市）で開催される令和５年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

○令和５年度長薬同窓会定期総会
令和5年6月17日（土）16時30分より，大分県大分市のレンブラントホテル大分にて開催されました。開会の後，物故者への黙祷，山口同窓会長よりの挨拶が行われました。引き続き，若松正人様（平１）を議長に選出して議事に入り，令和4年度の事業報告ならびに決算報告，それに対する監査報告がなされ，承認を得ました。続いて，令和4年度の庶務報告がなされました。次に，令和5年度事業計画案ならびに予算案が示され，こちらも原案どおり承認されました。その後，来年度の定期総会（北九州市）について北九州支部増田和久支部長（昭50）より説明がありました。このほか，遠藤武男先生寄附金活用方法の決め方について討議がなされました。
総会後，長らく自粛されていた懇親会が４年ぶりに開催されました。懇親会は大分支部石橋支部長の挨拶より始まり，ご来賓の西田薬学部長ご祝辞，西川恭夫様（昭26）の乾杯の御発声，古川　淳先生（昭25）よりの長薬の歴史のお話や変面ショーなど盛りだくさんの内容で和やかで盛大な会となりました。最後に，若松正人様（平１）による巻頭言と全員での校歌斉唱を行い，山瀬敬治様（平19）による一本締めでお開きとなりました。

○長薬同窓会関連施設の維持・管理

令和５年８月６日（日）に，グビロが丘防空壕跡慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員･事務局で行ないました。８月21日（木）には，昭和町校舎跡記念碑の清掃を岸川庶務幹事（平10），松尾会計幹事（平15）が同窓会本部役員を代表して行いました。また，11月３日（金・祝日）に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を県央支部会員が行ないました。

○令和５年度白衣贈呈式

令和５年９月28日（木）に薬学部多目的ホールにおいて，白衣贈呈式を執り行いました。贈呈式では，山口同窓会長の代理として澤勢瑞城副会長（平15）より激励のメッセージが送られました。その後西田薬学部長の挨拶を経て，薬学科・薬科学科それぞれの代表者１名に長崎大学薬学部の柏葉のロゴマーク入り白衣が贈呈され，記念撮影が行われました。

物　故　者　氏　名

前会報（62号）に発表の後亡くなった方，及び死亡が判明した方（敬称略）

氏　　名	卒年次	死亡年月日	氏　　名	卒年次	死亡年月日	氏　　名	卒年次	死亡年月日
小井田　雅　夫	特	令4.12.8	小川（江口）勝信	昭32	令4.7.17	木宮（大越）淑子	昭49	令4.9.21
寺　戸　寿　雄	昭20	令5.2.8	小　林　　浩	昭32	令3.12.31	小西（古賀）洋子	昭49	令4.8.－
奥川（野方）博文	昭23	令4.11.19	白　石　哲　也	昭32	令5.7.29	山岸（松林）美保	昭49	令5.5.28
大　石　又　男	昭24	令5.1.12	樺山（穂積）テイ子	昭34	令4.7.30	平　原　裕　久	昭51	令5.5.15
築　城　　巌	昭24	令4.4.25	永　田　了　一	昭36	令4.12.22	田中（高原）あき子	昭53	－
弥　永　和　恵	昭25	－	平　　季　久	昭37	令4.12.－	谷　森　英　明	院昭56	平29.－
岩　崎　輝　範	昭26	令4.6.4	柏田（角田）幸子	昭38	令4.12.11	篠　田　英　司	昭60	令5.8.6
江　口　　皙	昭30	令4.12.10	梶　野　　繁	昭42	令5.－	津　村　浩　行	昭61	令4.11.25
郷野（松尾）美智子	昭30	令5.5.12	横　地　靖　雄	昭42	－	水田（河内）昭子	昭63	令5.3.2
山　口　剛　志	昭31	令4.8.－	富　永　義　則	昭44	令5.4.15	田　中　祥　子	昭63	令4.6.24
井　本　宣　嘉	昭32	令4.11.9	新　平　孝一郎	院昭47	令5.3.23		計	32名

長薬同窓会への寄附金について（ご案内）

皆様におかれましては，ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて，長薬同窓会への寄附金につきましては，2016年６月に開催いたしました平成28年度定期総会においてご承認いただき年間を通じて随時受け付けているところであり，頂戴いたしました寄附金につきましては長薬同窓会の事業等に活用させていただいています。

つきましては，下記の通り寄附金を受け付けておりますので，本会事業の充実・発展のため，格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお，ご賛同いただける方は，次ページの寄附金申込書・白衣希望確認書をE-mail，FAX，または郵送にて事務局までお送りくださいますようお願い申し上げます。

寄附対象者	長崎大学薬学部同窓生 長崎大学薬学部教職員 本会の趣旨に賛同する個人，法人，団体など
寄附金の単位	個人による寄附金については１口１万円を単位とします。 法人・団体等による寄附金については１口の金額は定めません。
寄附金納入方法 ※専用の振込用紙等の送付はございませんので，各自ご都合のよろしい方法で送金をお願いいたします。	郵便振替　口座番号：01860-3-4125　口座名：長薬同窓会 銀行振込　十八親和銀行大橋支店　普通預金 口座番号：0517453　口座名：長薬同窓会 恐れ入りますが振込手数料は各自ご負担願います。また，振込人名義には寄附者名と同じ名前でのご入力をお願いします。 現　金　申込書を添えて現金書留でお送りいただくか，同窓会事務局へご持参ください。 ※申し訳ございませんが，長薬同窓会への寄附金の場合，税控除はありません。代りにお礼の品として校章入り白衣を贈呈いたします。
お礼の品	ご希望の方は１万円の寄附につき長崎大学薬学部の発端となった第五高等中学校の校章入り白衣を１着贈呈させていただきます。 サイズは男女別のS，M，L，LL，３Lとなっております。 次ページの白衣希望確認書によりE-mail，FAX，または郵送でお知らせください。 毎年７月末までにご寄附いただいた方へ10月初旬ごろを目安に校章入り白衣を贈呈させていただきます。 贈呈数の例：10万円の寄附→０～10着まで選択可能

長薬同窓会　会長　山口　正広

問い合わせ先：長薬同窓会事務局
〒852-8131　長崎市文教町１－14　長崎大学薬学部柏葉会館内
TEL＆FAX：095-844-6383　E-mail：jimukyoku@choyaku.jp

長 薬 同 窓 会 会 長　　殿

寄附者　　郵便番号　　－

住　　所

ふりがな

氏　　名

（※法人にあっては、法人名及び代表者の職・氏名）

卒年　　会員番号

（※同窓会会員の方で会員番号がわかる方はご記入ください。）

電話番号

（※電話番号は必ず記入して下さい。）

寄　附　金　申　込　書

１．寄　附　金　額　　円

２．納入予定日　　年　　月　　日

３．納入方法　　銀行振り込み　　郵便振替　　現金

（※いずれかに○をお願いします）

白　衣　希　望　確　認　書

１．　白衣の希望　　あり　　なし

２．　白衣のサイズと枚数

男性用	枚数	女性用	枚数
S		S	
M		M	
L		L	
LL		LL	
3L		3L	

（※1 口1万円につき1枚、最大 10 枚まで）

※この申込書は長薬同窓会のホームページからダウンロードできます。

キ リ ト リ 線

学　内　記　事

海外渡航（R4.11～R5.10）

種別	職名	氏　名	渡航先国	期　間	渡　航　目　的
出張	准教授	山本　剛史	サンディエゴ	2022/11/08～2022/11/13	RNA at the Bench and BedsideⅢでの研究成果の発表
出張	教　授	武田　弘資	パームスプリングス	2022/12/11～2022/12/18	The Protein Phosphatases Confenceに参加し，研究発表と情報収集を行う。
出張	助　教	吉田さくら	アデレード	2023/01/06～2023/03/31	国際共同研究
出張	教　授	西田　孝洋	アルバカーキ	2023/02/11～2023/02/17	大学間協定調印式
出張	教　授	鳥羽　陽	タイ　チェンマイ	2023/02/16～2023/02/23	大気サンプリング業務
出張	准教授	麓　伸太郎	アルバカーキ	2023/04/01～2023/08/11	科研費国際Aによる，国際共同研究
出張	助　教	吉田さくら	アデレード	2023/04/01～2023/06/14	国際共同研究
出張	教　授	山吉　麻子	ニューヨーク	2023/06/23～2023/07/02	Gordon Research Conference ‘Nucleosides, Nucleotides and Oligonucleotides‘
出張	准教授	岸川　直哉	台　湾	2023/08/29～2023/09/02	The 8th Taiwan-Japan Joint Conference for Pharmaceutical Sciences
出張	教　授	鳥羽　陽	台　湾	2023/08/29～2023/09/02	The 9th Taiwan-Japan Joint Conference for Pharmaceutical Sciences
出張	准教授	向井　英史	台　湾	2023/08/30～2023/09/02	The 10th Taiwan-Japan Joint Conference for Pharmaceutical Sciences
出張	教　授	石原　淳	フランス	2023/09/28～2023/10/06	オートアルザス大学ミュールーズ国立高等化学院にて研究打合，第28会日仏精密医薬会議に参加，情報収集
出張	教　授	鳥羽　陽	中　国	2023/10/11～2023/10/15	The 2nd International Symposium on Development of pharmacy Schools出席

（異　動）R4.11～R5.10

異動年月日	異動内容	職　名	氏　名	所属研究室	備　考
R5.4.1	再雇用	教　授	田中　隆	天然物化学	定年退職後，引き続き再雇用
R5.4.1	採　用	准教授	毛利浩太	医薬品情報学	理化学研究所から
R5.4.1	採　用	助　教	藁科翔太	医薬品情報学	理化学研究所から
R5.4.1	採　用	助　教	野村祥子	医薬品情報学	理化学研究所から
R5.4.1	採　用	助　教	神谷万里子	医薬品情報学	長崎大学　博士課程より
R5.5.1	採　用	助　教	ムハマド　ハメド　エルマグラビ	薬品分析化学	Faculty of Pharmacy,Mansoura University（エジプト）から

（学位授与）

学位記番号	学位の種類	氏　　名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏　　名	学位授与年月日
博甲第1504号	博士(薬科学)	堀（ほり）　祐真（ゆうま）	令和５年３月１日	博甲第1531号	博士(薬科学)	川﨑（かわさき）　則彦（のりひこ）	令和５年３月20日
博甲第1516号	博士(薬　学)	加藤（かとう）　直也（なおや）	令和５年３月20日	博甲第1532号	博士(薬科学)	杉本（すぎもと）　友里（ゆうり）	令和５年３月20日
博甲第1517号	博士(薬　学)	川口（かわぐち）　真帆（まほ）	令和５年３月20日	博甲第1533号	博士(薬科学)	野﨑（のざき）　伊織（いおり）	令和５年３月20日
博甲第1518号	博士(薬　学)	神谷万里子（かみやまりこ）	令和５年３月20日	博甲第1534号	博士(薬科学)	丹下愛佳理（たんげあかり）	令和５年３月20日
博甲第1529号	博士(薬科学)	胡（こ）　蝶（ちょう）	令和５年３月20日	博甲第1555号	博士(薬　学)	Geng Longjian（ガン ロジェン）	令和５年９月20日
博甲第1530号	博士(薬科学)	真倉（まくら）　唯（ゆい）	令和５年３月20日				

長 薬 同 窓 会 役 員

（令和５年５月）

本部役員

会　　長	山口　正広	昭56年	㈱翔薬佐世保支店
副 会 長	七種　　均	昭56年	松谷薬局
〃	中嶋　幹郎	昭57年	長大薬学部教授
〃	藤島さとみ	平３年	宝町薬局
〃	川上　　茂	平７年	長大薬学部教授
〃	澤勢　瑞城	平15年	さわせ薬局
監　　査	高良　真也	昭57年	みどり調剤薬局
庶務幹事	岸川　直哉	平10年	長大薬学部准教授
会計幹事	松尾　洋介	平15年	長大薬学部助教
編集幹事	鶴丸　雅子	平５年	長大病院薬剤部臨床研究センター
〃	宮元　敬天	平20年	長大薬学部助教
〃	小嶺　敬太	平24年	長大薬学部助教
幹　　事	本多　雅幸	昭62年	長崎県環境保健研究センター所長
〃	椛島　　力	平４年	長崎国際大教授
〃	山口　　拓	平８年	長崎国際大教授
〃	都田　真奈	平９年	長大薬学部教授
〃	藤田和歌子	平11年	長大医学部准教授
〃	大山　　要	平12年	長大病院教授・薬剤部長
〃	福地　弘充	院平14年	鍵屋薬局
〃	手嶋　無限	院平15年	アイビー薬局
〃	廣石　朝美	平28年	長崎県壱岐保健所
顧　　問	山中　國暉	昭43年	あおかた調剤薬局
〃	佐々木　均	昭53年	長大名誉教授

学年理事

学部

昭23年	中原　　潜	昭48年薬	山内　茂樹	昭61年薬	本多　　隆	平11年	今村　朋史	平25年学	黄　　智剛
昭24年		〃　製	井手　　清	〃　製	谷口　智子	〃	水野　和美	〃　科	原口　綾奈
昭25年	塚崎　邦彦	昭49年薬	金﨑　勝代	昭62年薬	森川　　隆	平12年	大山　　要	平26年学	安川　　徹
昭26年	峰　　唯信	〃　製	馬場　満輝	〃　製	池田能利子	〃	松永　隼人	〃　科	池田　夏海
昭28年	寺田　洋子	昭50年薬	橋間真理子	昭63年薬	小田　賢一	平13年	池口　敏春	平27年学	濵崎　久司
昭29年		〃　製	松田　米人	〃　製	神山　朝光	〃	佐道　紳一	〃　科	相原　希美
昭30年	帆士　辰雄	昭51年薬	中村　珠江	平１年薬	山内　　香	平14年	河内　　亮	平28年学	林田　颯志
昭31年	森　　健治	〃　製	原田　　均	〃　製	白川奈奈子	〃	小西　宏規	〃　科	松本　啓秀
昭32年	長田　雅子	昭52年薬	長井千惠美	平２年	小山　季之	平15年	木寺　健司	平29年学	副島　有佳
昭33年	西脇金一郎	〃　製	北村　良二	〃	山本　　稔	〃	原田　周平	〃　科	加藤　直也
昭34年	松尾　幸子	昭53年薬	森田　桂子	平３年	中村　達也	平16年	大神　正次	平30年学	平戸　基輝
昭35年	木下　敏夫	〃　製	佐々木　均	〃	中村　史子	〃	牟田　　響	〃　科	杉本　友里
昭36年	武田　成子	昭54年薬	七條　利幸	平４年	椛島　　力	平17年	黒﨑　友亮	平31年学	赤城　友章
昭37年	青木　　昇	〃　製	濱田　哲也	〃	藤田　靖之	〃	竹尾　公秀	〃　科	棚原　悠介
昭38年		昭55年薬	重松　敏彦	平５年	木村　　清	平18年	稲嶺　達夫	令２年学	草野　泰輝
昭39年	鈴木　隆治	〃　製	大田　佳史	〃	津田　由佳	〃	藤井　修平	〃　科	長坂　東奈
昭40年	松村　祐子	昭56年薬	道津　靖子	平６年	岩永　真理	平19年	細井　雄仁	令３年学	増田　智成
昭41年	伊豫屋偉夫	〃　製	都知木　睦	〃	金村　隆則	〃	向江　俊彦	〃　科	橋口　啓吾
昭42年	井上　一顕	昭57年薬	堀田千加子	平７年	土井　健志	平20年	向江　　桂	令４年学	忽那　幸紀
昭43年	山中　國暉	〃　製	中西美由紀	〃	原田　祐樹	〃	筒井　翔一	〃　科	谷口　由依
昭44年	中村　和子	昭58年薬	宮﨑　幹雄	平８年	草野　リエ	平21年	粂田　拓也	令５年学	藻利　　翔
昭45年	中村　　博	〃　製	松本　秀樹	〃	山口　　拓	〃	原　　陽介	〃　科	柴田　真衣
昭46年薬	大西　裕子	昭59年薬	金子　富美	平９年	里　　大輔	平22年	渕上　由貴		
〃　製	近藤　幸憲	〃　製	中村　忠博	〃	八木　洋一	平23年	中本　義人		
昭47年薬	上田　孝子	昭60年薬	塩田　英雄	平10年	稲本　真吾	平24年学	大塚　早紀		
〃　製	松本　逸郎	〃　製	山口　綾子	〃	八幡　弘樹	〃　科	只熊　郁也		

大学院

昭和42年～昭和46年	藤井　幹久　（院昭44年）	平成９年～平成13年	川上　　茂　（院平９年）
昭和47年～昭和51年	髙橋　正克　（院昭49年）	平成14年～平成18年	福地　弘充　（院平14年）
昭和52年～昭和56年	大木　　豊　（院昭54年）	平成19年～平成23年	岩村　直矢　（院平23年）
昭和57年～昭和61年	高良　真也　（院昭59年）	平成24年～平成28年	村山　彩香　（院平24年）
昭和62年～平成３年	本多　雅幸　（院平１年）	平成29年～令和３年	小川　昂輝　（院平29年）
平成４年～平成８年	富田　　守　（院平４年）	令和４年～令和８年	杉山　拓朗　（院令４年）

長薬同窓会支部一覧

（令和３年10月）

長崎支部ぐびろ会	会長	澤勢瑞城	（平 15）
長崎県北支部	支部長	相川康博	（昭 48）
島原支部	支部長	織田堅一郎	（平 6）
長崎県央支部	支部長	西村昇	（昭 50）
佐賀支部若楠会	会長	藤戸博	（院昭52）
福岡支部浦陵会	会長	池田光政	（昭 57）
北九州支部	支部長	増田和久	（昭 50）
大分支部	支部長	石橋眞	（昭 49）
宮崎支部日向浦陵会	会長	福森正剛	（平 13）
鹿児島支部	支部長	森昭雄	（昭 28）
熊本支部	支部長	山本喜一郎	（院昭55）
山口支部抜天会	会長	今村明久	（昭 49）
広島支部	支部長	青野拓郎	（昭 52）
岡山支部	支部長	歳森三千代	（昭 49）
山陰支部	支部長	郡山信宏	（昭 61）
四国支部	支部長	井上智喜	（昭 54）
近畿支部	支部長	末澤克己	（昭 47）
東海支部	支部長		
関東支部	支部長	原正朝	（昭 60）
沖縄支部	支部長		
北海道支部	支部長		

令和４年度長薬同窓会普通会計収支決算報告書

令和５年３月31日

収入の部

科　　目	予算額（A）	決算額（B）	増減額（B-A）	主な事項等
前年度繰越金	5,447,764	5,447,764	0	
会費	6,000,000	5,208,000	△ 792,000	延べ1,736名
入会金	1,536,000	1,410,000	△ 126,000	75名（令和４年度以前入学者納入も含む）
預金利息	50	583	8	
寄附金	50,000	50,000	0	令和４年度庶務報告参照
雑収入	10,000	13,498	3,498	三井住友トラストカード手数料
収入の部合計	13,043,814	12,129,320	△ 914,494	

支出の部

科　　目	予算額（A）	決算額（B）	増減額（B-A）	主な事項等
通信費	1,410,000	939,012	△ 470,988	
総会案内・会報発送料	770,000	559,714	△ 210,286	総会案内，会報発送
振替加入者負担金	290,000	230,707	△ 59,293	会費振込手数料
事務連絡郵便料	300,000	107,875	△ 192,125	はがき・切手代，理事会・総会関連郵送料他
電報電話料	50,000	40,716	△ 9,284	電話料
印刷費	1,400,000	857,262	△ 542,738	総会案内・資料印刷，会報印刷他
会合費	80,000	43,525	△ 36,475	理事会対面開催経費，本部役員会経費，駐車場代金
旅費	300,000	0	△ 300,000	
補助費	1,030,000	643,272	△ 386,728	
総会及び支部会補助金	600,000	400,000	△ 200,000	定期総会長崎支部
その他の補助金	430,000	243,272	△ 186,728	学生への補助（薬学祭，白衣贈呈）
維持管理費	105,000	25,722	△ 79,278	
原爆慰霊碑	100,000	25,722	△ 74,278	原爆慰霊祭，グビロが丘防空壕跡周辺の清掃
小野島記念碑	5,000	0	△ 5,000	
事務費	150,000	54,631	△ 95,369	
事務用品費	50,000	38,059	△ 11,941	コピー機トナー，コピー用紙，文具
電算機費用	100,000	16,572	△ 83,428	ホームページ関連利用料（サーバー他），ウイルスソフト代
人件費	2,815,000	2,370,092	△ 444,908	
雇員給料手当	1,030,000	1,030,000	0	事務局職員手当
雇員交通費	85,000	74,880	△ 10,120	事務局職員交通費
臨時雇員等手当	1,700,000	1,265,212	△ 434,788	事務補助員費，総会案内・会誌発送作業員費他
雑費	350,000	176,407	△ 173,593	
会員見舞弔慰金	50,000	0	△ 50,000	
その他	300,000	176,407	△ 123,593	事務局運営他
同窓会名簿発行積立金	500,000	500,000	0	
予備費（次年度繰越金）	4,903,814	6,519,397	1,615,583	
支出の部合計	13,043,814	12,129,320	△ 914,494	

令和４年度長薬同窓会積立金（同窓会名簿発行準備金）収支決算報告書

令和５年３月31日

収入の部

科　　目	予算額（A）	決算額（B）	増減額（B-A）	主な事項等
前年度繰越金	3,000,045	3,000,045	0	
繰入金	500,000	500,000	0	
預金利息	23	24	1	
収入の部合計	3,500,068	3,500,069	1	

支出の部

科　　目	予算額（A）	決算額（B）	増減額（B-A）	主な事項等
積立金（次年度繰越）	3,500,068	3,500,069	1	
支出の部合計	3,500,068	3,500,069	1	

会計監査報告書

会計幹事，松尾洋介氏立会のもと，令和４年度に関する帳簿及び預金通帳を詳細に監査した結果，記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり，上記の通り相違ありません。

令和５年４月27日　　監　査　高良真也

令和５年度長薬同窓会普通会計予算

令和５年４月１日

収入の部		支出の部		
科目	金額	科目		金額
前年度繰越金	6,519,397	通信費		1,450,000
会費（延1,733名）	5,200,000		総会案内・会報発送料	770,000
入会金等（薬学42名+薬科学43名）	1,612,000		振替加入者負担金	330,000
預金利息	50		事務連絡郵便料	300,000
寄附金	50,000		電報電話料	50,000
雑収入	10,000	印刷費		1,500,000
			会報他印刷費	1,500,000
		会合費		80,000
			理事会その他会合費	80,000
		旅費		800,000
			役員その他出張費	800,000
		補助費		1,030,000
			総会及び支部会補助金	600,000
			その他補助金	430,000
		維持管理費		105,000
			原爆慰霊碑	100,000
			小野島記念碑	5,000
		事務費		150,000
			事務用品費	50,000
			電算機費用	100,000
		人件費		2,825,000
			雇員給料手当	1,040,000
			雇員交通費	85,000
			臨時雇員等手当	1,700,000
		雑費		350,000
			会員見舞弔慰金	50,000
			その他	300,000
		長薬同窓会積立金（名簿発行準備金）		500,000
		予備費		4,601,447
合計	13,391,447	合計		13,391,447

令和５年度長薬同窓会積立金（同窓会名簿発行準備金）予算

令和５年４月１日

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	3,500,069	積立金（次年度へ繰越）	4,000,093
繰入金	500,000		
預金利息	24		
合計	4,000,093	合計	4,000,093

～会費振込用紙同封の方へ～

会費振り込みのお願い

長薬同窓会会員の皆様におかれましては，益々ご清祥の段，お慶び申し上げます。

長崎大学薬学部は日本最古の薬学部のひとつで，独特な歴史と高い教育力・研究力を持ち，多くの優秀な卒業生を輩出し社会に貢献してきました。本会は，総会・支部会への支援，同窓会名簿及び会報の発行，学生支援などの事業を行い，同窓生相互の親睦の推進に寄与してまいりました。

これらの事業は，皆様から納入いただいた会費を財源として行ってきたものであり，これまでの会員皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。

これからにつきましても創意工夫を図りながら，長崎大学薬学部出身同窓生の親睦を一層深めていく事業に取り組んでまいりたいと考えており，事業推進のため，会費の納入にご協力いただきますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

なお，会費未納（３年以上）の場合は会報をお送りできません。長期未納の会員におかれましては，３年分（9000円）をお振込みいただければ，会報・名簿（ご希望の方のみ）の発送等を再開させていただきます。何卒ご理解のほどよろしくお願いいたします。また，名簿の発行の頻度につきましては他大学に合わせ５年に１回となりました。

振込受領証を領収書の代わりとさせていただきますので，大切にお取り扱いをお願いいたします。

氏名，住所，勤務先などに変更がありましたら下記，事務局までお知らせください。

長薬同窓会
長崎市文教町１－14　長崎大学薬学部内
Tel＆Fax：095－844－6383（直通）

会費振込み方法について

会費については，ご都合の良い方法を選んでお振込みください。

①郵便振込みの場合

住所変更等がありましたら，通信欄をご利用ください。

※郵便局（ATM含む）から現金で払い込みの場合，払い込みをされる方に現金加算料金110円がかかりますので，ご了承ください。通帳やカードをご利用いただくか，コンビニ･Pay払いでのお振込みをお勧めします。

②コンビニエンスストア振込みの場合

金額の変更はできません。**最新の振込用紙をご利用ください。**

通信欄がありませんので，住所変更その他のご連絡は長薬同窓会事務局へ直接お願いいたします。

③PayPay，LINE Pay請求書支払い，au PAY振込みの場合

PayPay，LINE Pay請求書支払い，au PAYアプリのコードリーダーで同封の振込用紙のバーコードを読み込んでお支払いお願いいたします。

（支払先：小野高速印刷株式会社，代行会社：三菱UFJファクター株式会社となりますのでご注意ください。）

事務局からのお願い

◎来年は会員名簿発行を予定しております。名簿に掲載する会員情報変更については随時受け付けております。変更がある方はお早めに変更をご連絡ください。

＜会員情報変更方法＞

・ホームページ
長薬同窓会ホームページ → 会員情報変更 → 必要事項入力

・Email
長薬同窓会事務局　jimukyoku@choyaku.jp

・定期総会案内に同封の返信ハガキ
毎年４月末頃に郵送される返信ハガキ（切手不要）に記入し投函

・郵便はがき
〒852-8131 長崎市文教町１-14　長崎大学薬学部内　長薬同窓会事務局宛

・電話，FAX
長薬同窓会事務局　095-844-6383（FAX兼用）へ

会員情報変更こちらより

◎会費の納入にご協力ください。

お振込みの際は，総会案内・会報に同封の振込用紙をご利用ください。
郵便振替，コンビニエンスストア，LINE Pay，PayPay，au PAYをご利用できます。
※会費未納がある方は名簿送付を停止しております。

◎長薬同窓会の情報をホームページやFacebookで発信しています。時々アクセスしてみてください。

ホームページ　https://choyaku.jp/
Facebook　https://ja-jp.facebook.com/cyoyaku/

クラス会や同窓会の広報も行いますので，情報があればご連絡ください。

◎会報へのご寄稿をお願いいたします。

毎年10月末締め切りで年末に発行しておりますが，記事がございましたらいつでも結構です。事務局までお送りください。

編集後記

世界的に大きな影響を与えたコロナウイルスでしたが，ようやくその影響も小さくなり学会や薬剤師の勉強会も対面での開催が多くなってきました。しかし，コロナ禍で培われたオンラインの技術を活用しハイブリッド形式での実施を継続いただいているものもございます。コロナウイルスによりかなりの苦労がありましたが，オンライン技術の発展により学習の機会を以前より得られるようになったのはいいことだと感じています。今年はようやく総会と懇親会を行うことができ，多くの方と交流することが出来ました。また，寄せられた原稿を拝見すると各支部での集まりや，同窓生や友人との交流も再開されており，同窓会の繋がりを強く感じることが出来ました。このような部分はやはり直接交流することが大事であることを改めて感じた一年でした。最後になりますが，ご寄稿いただいた多くの皆様のご協力の下，会報を発行することが出来ました。この場を借りて感謝申し上げます。

宮元　敬天

令和５年12月20日印刷
令和５年12月24日発行

長薬同窓会報

編　集　鶴丸雅子，宮元敬天，小嶺敬太
発　行　長薬同窓会
所在地　〒852－8131
長崎市文教町１－14　長崎大学薬学部内
ＴＥＬ 095－844－6383（直通）（ＦＡＸ）
メールアドレス　jimukyoku@choyaku.jp

印刷所　〒870－0913　大分市松原町２－１－６
小野高速印刷株式会社
TEL 0120－58－3002

長崎大学薬学部　長薬同窓会